

I 調査概要

1. 調査目的

太子町では、すべての人の人権が尊重される社会の実現をめざし、さまざまな人権啓発活動をおこなっています。本調査は、これまでの人権施策の成果や課題を把握するとともに、今後のより効果的な人権啓発活動のあり方を検討するための基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査方法

(1) 調査対象者

対 象 ：無作為に抽出した 16 歳以上の太子町民
対象者数：1, 0 0 0 人

(2) 調査方法

郵送配布・郵送回収

(3) 調査期間

令和 2 年 5 月 29 日 ～ 6 月 12 日

(4) 主要調査項目

- ① 属性と人権意識・人権学習について
- ② 人権課題の認知状況とそれを知ったきっかけ
- ③ 人権課題の考え方
- ④ 人権課題の認知状況と知ったきっかけ
- ⑤ 人権侵害についての意識
- ⑥ 今の社会についての意識
- ⑦ 人権に関する法律や条例の認知状況
- ⑧ 太子町や太子町人権協会が行う事業の認知状況など
- ⑨ 人権課題からみる太子町の人権が尊重されるまちであるかどうかの意識
- ⑩ 人権を尊重する立場からみて問題と思われる言動について
- ⑪ 人権を尊重する立場からみて問題と思われる言動への対応
- ⑫ 自分以外の「人権を尊重する立場からみて問題と思われる言動」への対応

3. 回收状况

配 布 数：1, 0 0 0 件

有効回収数： 4 1 0 件

回 収 率： 4 1. 0 %

Ⅱ 調査結果概要

1. 回答者の属性と人権意識・人権学習について

(1) 回答者の属性

- **性別**は「男性」が40.7%、「女性」が58.8%と「女性」の割合が18.1ポイント高くなっています。**年齢**は2人に1人が60歳以上の高齢者が占めています。「20歳未満」は4.6%、「20歳以上60歳未満」は42.9%、「60歳以上」は52.2%となっています。**職業**では、**就労率**が50.5%と2人に1人が就労しています。就労者のうち「常時雇用従業員等」(公務員・教員と民間企業・団体等の合計割合)は25.1%、「非常時雇用従業者(臨時雇用・パート・アルバイトなど)」は15.4%、「自営業、自由業」は7.1%、「民間企業・団体等の経営者・役員等」は2.9%を占めています。**職業を有していない**は47.8%、「無職」が21.7%、「専業主婦・主夫」は19.5%、「学生」は6.6%となっています。

(2) 人権意識と人権学習

① 人権意識

- 「人権」について、3人に1人は「非常に大切なことだと認識している」(36.1%)が、半数は「大切なことだと思うが、普段はあまり意識していない」(53.2%)となっています。半面「ほとんど意識したことはない」(6.3%)や「人権という言葉を知るとやっかいなものと感じる」(2.0%)、「自分には関係がないと思っている」(0.2%)と忌避意識や無関心などは1割近くを占めています。
- 認識度が高い「非常に大切なことだと認識している」を**年齢別**にみると、「60～69歳」が42.5%、「20歳未満」が42.1%、「70～79歳」が40.7%と、「60～79歳」の年齢層、いわゆる『団塊の世代』は人権への認識の高いことが表れています。また、**人権学習の経験別**にみると、職場や学校などで、人権に関して学んだ経験が「ある」が38.9%、「ない」は26.0%と12.9ポイントの差が見られ、人権学習の経験の有無が人権に対する認識の深さに影響していることが表れています。

② 人権の学習経験と場

人権に関して職場や学校などで学んだ**経験**が「ある」は79.0%を占めています。**これを年齢別**でみると、年齢が高くなるほど人権学習の経験の割合は低くなっています。「20歳未満」は全員が経験するなど最も高く、年齢が高くなるほど経験が「ある」の割合は低くなり、「80歳以上」では46.0%と最も低くなっています。

- その**学習の場**は、「中学校」(62.3%)が最も多く、次いで「小学校」(48.1%)、「高等学校」(47.2%)、「職場」(35.2%)、「大学・短期大学」(19.1%)と、義務教育のなかでも「中学校」の割合が顕著に高くなっています。

2. 人権課題の認知状況と知ったきっかけ

(1) 人権課題の認知状況

- 「子どもの人権」(90.7%)と「女性の人権」(90.0%)が人権課題の中で最も多く、次いで「障がいのある人の人権」「同和問題(部落差別)」(いずれも86.8%)、「高齢者の人権」(74.9%)、「外国人の人権」(70.7%)、「ヘイトスピーチについて」(65.9%)の順になっています。
- 年齢別にみると、年齢により人権課題の認知度(人権課題を知っている割合)に違いがみられます。総じて「80歳以上」は全項目にわたり全体平均より割合が低くなっています。さらに「20歳未満」では「同和問題(部落差別)」、「ヘイトスピーチ」が、「70～79歳」では「女性の人権」、「子どもの人権」が全体平均より割合が低くなっており、人権課題へのきめ細かな対応策が求められるといえます。

(2) 人権課題を知ったきっかけと特に対応すべき人権課題

- **人権課題を知ったきっかけ**は、同和問題(部落差別)を除いて、共通して「新聞・テレビ・ラジオ」の割合が圧倒的に高くなっています。「女性」、「子ども」、「高齢者」、「障がいのある人」、「外国人」、「ヘイトスピーチ」では最も割合が多く、マスメディアは人権課題の情報源として大きな役割を担っていることが表れています。これら人権課題を知ったきっかけをマスメディアを除いてみると、その上位3位は、「女性の人権」では職場・インターネット・学校教育、「子どもの人権」では、学校教育・インターネット・職場、「高齢者の人権」ではインターネット・職場・学校教育、「障がいのある人の人権」では学校教育・職場・インターネット、「外国人の人権」では学校教育・インターネット・職場、「ヘイトスピーチについて」ではインターネット・学校教育・職場と、学校教育・インターネット・職場が上位を占めています。なかでも「学校教育」は人権課題を「知る」とともに「学ぶ」ということから重要な役割を担っていることが分かります。
- 「**同和問題(部落差別)**」を知ったきっかけは、他の人権課題とは異なった傾向を示しています。知ったきっかけは「学校教育」(54.8%)が最も多く、次いで「新聞・テレビ・ラジオ」(35.4%)、「職場」(16.9%)、「地域社会」「家族・親戚」(いずれも14.9%)「友人・知人」(12.6%)となっています。他の人権課題と比べ地域社会、家族・親戚、友人・知人など「地縁」「血縁」などの割合が高いことが表

れています。

- こうした人権課題の中で特に対応すべき人権課題は、「子どもの人権（いじめ、体罰、性被害などを含む虐待）」が70.5%と圧倒的に多く、次いで「女性の人権（セクハラ、DVなど）」（37.8%）、「障がいのある人の人権」（32.2%）、「高齢者の人権」（12.9%）、「同和問題（部落差別）」（7.3%）の順になっています。特に対応すべき人権課題別の年齢層を見ると、年齢層ごとに対応すべき人権課題への特徴がみられます。「障がいのある人の人権」「高齢者の人権」は、50歳から年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向がみられます。「同和問題（部落差別）」では、70歳以上の高齢者とともに、20歳未満が上位を占めています。さらに「外国人の人権」は「20歳未満」と「30～49歳」の比較的若い年齢層が上位を占めています。

表.人権課題を知ったきっかけ

	女性の人権 (セクハラ、DVなど)		子どもの人権 (いじめ、体罰、性被害などを含む虐待)		高齢者の人権		障がいのある人の人権		同和問題 (部落差別)		外国人の人権		ハイトスピーチについて	
1	新聞・テレビ・ラジオ	78.6%	新聞・テレビ・ラジオ	72.8%	新聞・テレビ・ラジオ	69.4%	新聞・テレビ・ラジオ	60.7%	学校教育	54.8%	新聞・テレビ・ラジオ	69.7%	新聞・テレビ・ラジオ	77.0%
2	職場	21.4%	学校教育	30.9%	インターネット	18.6%	学校教育	30.3%	新聞・テレビ・ラジオ	35.4%	学校教育	22.1%	インターネット	21.9%
3	インターネット	20.1%	インターネット	19.9%	職場	16.6%	職場	19.7%	職場	16.9%	インターネット	19.3%	学校教育	11.9%
4	学校教育	16.3%	職場	10.2%	学校教育	16.0%	インターネット	17.7%	地域社会	14.9%	職場	14.5%	職場	10.7%
5	行政の情報 (広報など)	8.9%	地域社会	10.2%	地域社会	15.0%	地域社会	13.8%	家族・親戚	14.9%	行政の情報 (広報など)	7.2%	行政の情報 (広報など)	6.3%
6	地域社会	8.1%	行政の情報 (広報など)	9.1%	行政の情報 (広報など)	12.4%	行政の情報 (広報など)	12.1%	友人・知人	12.6%	地域社会	6.2%	地域社会	5.9%
7	友人・知人	7.3%	家族・親戚	6.7%	家族・親戚	9.1%	家族・親戚	9.0%	行政の情報 (広報など)	10.7%	友人・知人	5.9%	友人・知人	2.2%
8	家族・親戚	4.3%	友人・知人	6.5%	友人・知人	4.9%	友人・知人	8.1%	インターネット	10.1%	家族・親戚	4.5%	家族・親戚	1.9%

3. 人権課題の意識について

① 女性の人権

「夫婦であっても暴力をふるうことは許されない」と「思う」が96.5%、「どちらともいえない」は2.4%、「思わない」は0.2%となっており、ドメスティック・バイオレンスについて「許されない」という意識が大半を占めています。「親の世話や介護は、女性の役割である」と「思わない」が66.8%、「どちらともいえない」は24.4%、「思う」は7.8%となっており、固定的な性別役割分担についての否定的意識が6割以上を占めています。「採用や昇任など、職場での男女の待遇の違いはやむを得ない」と「思わない」が56.1%、「思う」は20.5%、「どちらともいえない」は20.0%となっており、職業生活における男女共同参画についての肯定的意識が6割近くを占めています。

② 子どもの人権

「いじめは、いじめられる側にも問題がある」と「思わない」が47.3%、「どちらともいえない」は28.3%、「思う」は22.7%となっており、いじめの被害者を問題視する意識が2割を占めています。「子どもは保護者や親の意見に従えばよい」と「思わない」が62.9%、「どちらともいえない」は28.3%、「思う」は12.9%と、子どもは「守られるべき存在」「権利の主体」であることについて肯定的意識は6割の半面、否定的意識は1割を占めています。

③ 高齢者の人権

「高齢者はあまり自己主張せず、家族や周りの者の言うことを聞いた方がよい」と「思わない」が46.6%、「どちらともいえない」は27.6%、「思う」は24.2%となっています。「働く意欲や能力がある高齢者の雇用や待遇が十分に保証されていないのはおかしい」と「思う」が66.8%、「どちらともいえない」は21.0%、「思わない」は9.0%となっており、高齢者が就業をはじめ多様な社会活動に参加する機会の確保に対して肯定的意識は7割近く、否定的意識は1割を占めています。

④ 障がいのある人の人権

「障がいのある人が社会参加しやすくするために、地域住民が交流する機会を増やすべきだ」と「思う」が71.7%、「どちらともいえない」は21.5%、「思わない」は4.4%となっており、障がいのある人があらゆる分野の活動に参加する機会の確保に対する肯定的意識は7割、否定的意識はほぼ1割を占めています。「障がいのある人は、自分の行動について、自分で選択や決定する機会が制限されても仕方がない」は「思わない」が49.0%、「どちらともいえない」は32.0%、「思う」は15.6%と障がいのある人への社会的障壁の除去に対しての肯定的意識は半数の半面、否定的意識は1割以上を占めています。

⑤ 同和問題（部落差別）

「同和問題（部落差別）は過去にあったが、今は存在しない」と「思わない」は38.0%、「どちらともいえない」は31.0%、「思う」は27.4%を占め、意識が分かれていることが表れています。「自分の身内が同和地区出身者と結婚することには反対する」は、「どちらともいえない」が38.3%、「思わない」は35.4%、「思う」は22.7%を占めています。

⑥ 外国人の人権

「外国人は賃貸有宅などの入居を断られても仕方がない」は「思わない」が60.2%、「どちらともいえない」は29.3%、「思う」は6.9%を占めています。「外国の生活習慣や文化などへの理解が欠けており、地域社会への受け入れが十分でない」は、「思う」が48.5%、「どちらともいえない」が32.0%、「思わない」は13.7%を占めています。

表.人権課題の意識

		思う		思わない		どちらとも いえない
1	夫婦であっても、暴力をふるうことは許されない。	96.5%	>	0.2%	<	2.4%
2	親の世話や介護は、女性の役割である	7.8%	<	66.8%	>	24.4%
3	採用や昇任など、職場での男女の待遇の違いはやむを得ない	20.5%	<	56.1%	>	20.0%
4	いじめは、いじめられる側にも問題がある	22.7%	<	47.3%	>	28.3%
5	子どもは、保護者や大人の意見に従えばよい	12.9%	<	62.9%	>	22.0%
6	高齢者は、あまり自己主張せず、家族やまわりの者の言うことを聞いた方がよい	24.2%	<	46.6%	>	27.6%
7	働く意欲や能力がある高齢者の雇用や待遇が十分に保証されていないのはおかしい	66.8%	>	9.0%	<	21.0%
8	障がいのある人が社会参加しやすくするために、地域住民が交流する機会を増やすべきだ	71.7%	>	4.4%	<	21.5%
9	障がいのある人は、自分の行動について、自分で選択や決定する機会が制限されても仕方がない	15.6%	<	49.0%	<	32.0%
10	同和問題(部落差別)は、過去にはあったが、今は存在しない	27.4%	<	38.0%	>	31.0%
11	自分の身内が同和地区出身者と結婚することには反対する	22.7%	<	35.4%	<	38.3%
12	外国人は、賃貸住宅などの入居を断られても仕方がない	6.9%	<	60.2%	>	29.3%
13	外国の生活習慣や文化などへの理解が欠けており、地域社会の受入れが十分でない	48.5%	>	13.7%	<	32.0%

4. 人権侵害の認知状況と知ったきっかけ

(1) 人権侵害の認知状況

- 「パワーハラスメントについて」が88.3%と最も多く、次いで「性的マイノリティの人権侵害」(79.8%)、「インターネット上の人権侵害」(79.5%)、「ハンセン病回復者への人権侵害」(73.7%)、「引きこもりに対する偏見や差別」(72.2%)の順になっています。
- 人権侵害の認知状況は年齢層によって認知度の高低差が表れています。「40～49歳」「50～59歳」「70～79歳」の年齢層では人権侵害全ての項目で認知度は全体平均を上回っています。これに対して、比較的若い「20歳未満」「20～29歳」、最も高齢の「80歳以上」では全体平均を下回る認知状況が表れています。

(2) 人権侵害を知ったきっかけ

- 「ハンセン病回復者」「刑を終えて出所した人」「犯罪被害者等」「インターネット」「性的マイノリティ」への人権侵害や「自殺や自死遺族」「引きこもり」に対する偏見や差別、「パワーハラスメント」について知ったきっかけは、共通して「新聞・テレビ・ラジオ」が圧倒的に多数を占めており、人権侵害や偏見・差別の情報源として、マスメディアは重要な役割を担っていることが表れています。
- 「新聞・テレビ・ラジオ」を除いて、人権侵害や偏見・差別の上位3位をみると、「インターネット」「職場」「学校教育」が上位を占めているのがわかります。その中で、「犯罪被害者等への人権侵害」では『地域社会』、「自殺や自死遺族に対する偏見や差別」では「地域社会」に加えて『家族・親戚』、「パワーハラスメントについて」「引きこもりに対する偏見や差別」では『友人・知人』が上位を占めています。人権侵害を知ったきっかけは、地域や家族・親戚、友人・知人により身近なところが多くみられます。

表.人権侵害を知ったきっかけ

	ハンセン病回復者への人権侵害	刑を終えて出所した人への人権侵害	犯罪被害者等への人権侵害	インターネット上の人権侵害	性的マイノリティ上の人権侵害	自殺や自死遺族に対する偏見や差別	パワーハラスメントについて	引きこもりに対する偏見や差別
1	新聞・テレビ・ラジオ 79.8%	新聞・テレビ・ラジオ 82.0%	新聞・テレビ・ラジオ 86.7%	新聞・テレビ・ラジオ 81.3%	新聞・テレビ・ラジオ 83.5%	新聞・テレビ・ラジオ 82.8%	新聞・テレビ・ラジオ 82.6%	新聞・テレビ・ラジオ 79.4%
2	学校教育 14.6%	インターネット 17.3%	インターネット 21.1%	インターネット 36.2%	インターネット 25.7%	インターネット 21.2%	職場 23.2%	インターネット 19.9%
3	インターネット 13.2%	職場 7.3%	職場 4.9%	学校教育 7.7%	学校教育 8.6%	地域社会 5.6%	インターネット 22.9%	友人・知人 9.1%
4	職場 7.0%	学校教育 5.5%	地域社会 4.9%	職場 4.9%	職場 7.0%	家族・親戚 4.8%	友人・知人 8.0%	職場 7.1%
5	家族・親戚 5.6%	地域社会 5.2%	学校教育 3.9%	友人・知人 3.4%	行政の情報(広報など) 4.6%	職場 4.8%	学校教育 6.4%	地域社会 7.1%
6	行政の情報(広報など) 5.6%	友人・知人 3.1%	行政の情報(広報など) 2.5%	家族・親戚 2.8%	地域社会 4.3%	友人・知人 4.0%	行政の情報(広報など) 4.1%	家族・親戚 6.1%
7	地域社会 3.6%	行政の情報(広報など) 3.1%	家族・親戚 2.1%	行政の情報(広報など) 2.8%	友人・知人 4.0%	行政の情報(広報など) 4.0%	地域社会 3.0%	学校教育 6.1%
8	友人・知人 3.0%	家族・親戚 1.7%	友人・知人 0.7%	地域社会 2.1%	家族・親戚 1.8%	学校教育 3.6%	家族・親戚 2.5%	行政の情報(広報など) 3.4%

5. 人権侵害についての考え方

① ハンセン病回復者について

『ハンセン病回復者とは一緒に入浴しない』は「思わない」が47.1%、「どちらともいえない」は35.6%、「思う」は12.1%となっています。

② 刑余者について

『刑を終えて出所した人に対して雇用や関わりを避ける』は「どちらともいえない」

が 40.2%、「思わない」は 28.3%、「思う」は 26.1%となっています。

③ 犯罪被害者について

『犯罪被害者やその家族が、捜査や刑事裁判で精神的負担を受けないように保護すべきだ』は「思う」が 80.7%、「どちらともいえない」は 10.5%、「思わない」は 5.1%となっています。

④ インターネットについて

- 『子どもたちの間で、インターネットやSNSを利用したいじめが発生している』は「思う」が 78.3%、「どちらともいえない」は 9.5%、「思わない」は 9.5%となっています。
- 『インターネット上は、誰もが自由に書き込める場なので、他人の誹謗中傷を書き込んでも問題はない』は「思わない」が 90.7%、「どちらともいえない」は 3.7%、「思う」は 1.7%となっています。

⑤ 同性婚について

『結婚は男性と男性、女性と女性などでも認められるべきだ』は「思う」が 36.8%、「どちらともいえない」は 33.9%、「思わない」は 26.1%と意識が分かれています。

⑥ 性的マイノリティについて

『家族からLGBTQなどの性的マイノリティであることを打ち明けられても、意思を尊重し変わりなく受け入れられる』は「思う」が 42.2%、「どちらともいえない」は 37.3%、「思わない」は 14.1%となっています。

⑦ 自殺について

『自殺の多くは社会的に追い込まれた末の死である』は「思う」が 45.9%、「どちらともいえない」は 34.6%、「思わない」は 15.4%となっています。

⑧ ハラスメントについて

『人前で部下を長時間にわたり大声で叱るのはハラスメントだ』は「思う」が 87.8%、「どちらともいえない」は 6.8%、「思わない」は 1.7%となっています。

⑨ 引きこもりについて

『引きこもりの状態になるのは、本人や家族の責任だ』は「どちらともいえない」が 41.7%、「思わない」は 35.9%、「思う」は 18.5%となっています。

表.人権侵害についての考え方

		思う		思わない		どちらとも いえない
1	ハンセン病回復者とは、一緒に食事や入浴をしない	12.0%	<	47.1%	>	35.6%
2	刑を終えて出所した人に対して、雇用や関わりを避ける	26.1%	<	28.3%	<	40.2%
3	犯罪被害者やその家族が、捜査や刑事裁判で精神的負担を受けないように保護するべきだ	80.7%	>	5.1%	<	10.5%
4	子どもたちの間で、インターネットやSNSを利用したいじめが発生している	78.3%	>	4.9%	<	9.5%
5	インターネット上は、誰もが自由に書き込める場なので、他人の誹謗中傷を書き込んでも問題はない	1.7%	<	90.7%	>	3.7%
6	結婚は、男性と男性、女性と女性などでも認められるべきだ。	36.8%	>	26.1%	<	33.9%
7	家族から、LGBTなどの性的マイノリティであることを打ち明けられても、意思を尊重し、変わりなく受け入れられる	42.2%	>	14.1%	<	37.3%
8	自殺の多くは、社会的に追い込まれた末の死である	45.9%	>	15.4%	<	34.6%
9	人前で部下を長時間にわたり大声で叱るのはハラスメントだ	87.8%	>	1.7%	<	6.8%
10	引きこもりの状態になるのは、本人や家族の責任だ	18.5%	<	35.9%	<	41.7%

注)『思う』は「そう思う」「ややそう思う」の合計割合

『思わない』は「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計割合

6. 今の社会についての意識

(1)「努力をしない人を社会が面倒を見るのはおかしい」

「思う」は53.5%と半数を占め、次いで「どちらともいえない」は27.8%、「思わない」は15.4%となっています。

(2)「貧困はその人の責任だから、救う必要はない」

「思わない」は55.1%と半数を占め、次いで「どちらともいえない」は33.7%、「思う」は8.3%となっています。

(3)「人権尊重が叫ばれる一方で、権利のみを主張して、他人の迷惑を考えない人が増えてきた」

「思う」は70.8%、次いで「どちらともいえない」は22.0%、「思わない」は3.6%となっています。

表.今の社会についての意識

		思う		思わない		どちらとも いえない
1	努力しない人を社会が面倒を見るのはおかしい	53.4%	>	15.4%	<	27.8%
2	貧困はその人の責任だから、救う必要はない	8.3%	<	55.1%	>	33.7%
3	人権尊重が叫ばれる一方で、権利のみを主張して、他人の迷惑を考えない人が増えてきた	70.7%	>	3.7%	<	22.0%

7. 人権に関する法律や条例の認知状況

人権に関する法律や条例の認知度の上位5位は、①世界人権宣言（65.1%）②部落差別解消推進法（46.6%）③障害者差別解消法（35.9%）④ヘイトスピーチ解消法（34.6%）⑤大阪府ヘイトスピーチ解消推進条例（21.0%）と、世界人権宣言の認知度が顕著に高く、また法律の認知度が条例よりも高くなっています。法律・条例の中で最も認知度が低いのは大阪府性の多様性理解増進条例となっています。

8. 太子町や太子町人権協会が行う事業の認知状況と太子町人権啓発推進大会など4つの大会や講演会などの参加経験

(1) 認知状況

人権に関する事業の上位5位は、①広報太子 人権コーナー「気づく」（37.1%）②太子町人権協会子どもの人権を守る部会 夏の親子映画会（32.7%）③太子町人権尊重のまちづくり条例（27.6%）④人権相談（25.6%）⑤太子町人権啓発推進大会、太子町人権協会子どもの人権を守る部会コンサートなど（いずれも 22.4%）となっています。総じて条例や計画以上に映画会、講演会などイベントの認知度が高いことが表れています。

(2) 参加経験

- ・太子町人権啓発推進大会の「参加」は 33.7%
- ・太子町人権協会子どもの人権を守る部会 夏の親子映画会の「参加」は 55.2%
- ・太子町人権協会子どもの人権を守る部会 コンサートなどの「参加」は 50.0%
- ・南河内男女共同参画社会研究会講演会の「参加」は 42.0%

9. 人権課題から見る太子町の「人権が尊重されるまち」であるかどうかの意識

① 男女共同参画

- 『男性と女性がともに、仕事や家事、地域での活動に参加し、その個性と能力を十分に発揮できるまちである』は、「どちらともいえない」が42.2%、「思う」は33.2%、「思わない」は14.6%となっています。
- 『配偶者・パートナーなどからの暴力（DV）の相談が受けられ、安心して暮らせるまちである』は、「どちらともいえない」が51.5%、「思う」は26.8%、「思わない」は8.0%となっています。

② 子ども・子育て

- 『子ども各々の個性を発揮し、夢や目標に向かって、いきいきと暮らせるまちで

ある』は、「思う」が41.5%、「どちらともいえない」は35.1%、「思わない」は12.9%となっています。

- 『子育て家庭が安心して子どもを産み育てられるまちである』は、「思う」が58.5%、「どちらともいえない」は23.2%、「思わない」は9.8%となっています。

③ 高齢者

- 『高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちである』は「思う」が60.2%、「どちらともいえない」は22.4%、「思わない」は10.7%となっています。
- 『高齢者がさまざまな活動の場に恵まれ、社会参加を通じ、生きがいを持って暮らせるまちである』は「思う」が45.6%、「どちらともいえない」は34.6%、「思わない」は11.2%となっています。

④ 障がいのある人

- 『障がいのある人が就労の機会に恵まれ、自立した生活を営めるまちである』は「どちらともいえない」が45.6%、「思う」は22.0%、「思わない」は19.3%となっています。
- 『障がいのある人がさまざまな相談ができ、安心して生活を営めるまちである』は「どちらともいえない」が49.0%、「思う」は23.7%、「思わない」は14.1%となっています。

⑤ 外国人

『外国人が地域社会の一員として、さまざまな相談や情報提供を受けることができるなど、充実した生活が営めるまちである』は「どちらともいえない」が52.2%、「思う」は17.1%、「思わない」は16.8%となっています。

⑥ 犯罪被害者やその家族

『犯罪被害者やその家族が再び平穏に暮らせるようになるために、地域の人々の理解や協力が得られるまちである』は「どちらともいえない」が55.1%、「思わない」は17.6%、「思う」は13.2%と、「どちらともいえない」が最も多く、「思わない」が「思う」よりも4.4ポイント高くなっています。

⑦ 性的マイノリティ

『LGBTQなど性的マイノリティの人が差別を受けることなく、自分らしく生きることができるまちである』は「どちらともいえない」が53.9%、「思わない」は17.8%、「思う」は13.7%と、「どちらともいえない」が最も多く、「思わない」が「思う」よりも4.1ポイント高くなっています。

表.人権課題から見る太子町の「人権が尊重されるまち」であるかどうかの意識

		思う		思わない		どちらとも いえない
1	男性と女性がともに、仕事や家事、地域での活動に参加し、その個性と能力を十分に発揮できるまちである	33.2%	>	14.6%	<	42.2%
2	配偶者・パートナーなどからの暴力(DV)の相談が受けられ、安心して暮らせるまちである	26.8%	>	8.0%	<	51.5%
3	子どもが各々の個性を発揮し、夢や目標に向かって、いきいきと暮らせるまちである	41.5%	>	12.9%	<	35.1%
4	子育て家庭が安心して子どもを産み育てられるまちである	58.5%	>	9.8%	<	23.2%
5	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちである	60.2%	>	10.7%	<	22.4%
6	高齢者がさまざまな活動の場に恵まれ、社会参加を通じ、生きがいを持って暮らせるまちである	45.6%	>	11.2%	<	34.6%
7	障がいのある人が就労の機会に恵まれ、自立した生活を営めるまちである	22.0%	>	19.3%	<	45.6%
8	障がいのある人がさまざまな相談ができ、安心して生活を営めるまちである	23.7%	>	14.1%	<	49.0%
9	外国人が地域社会の一員として、さまざまな相談や情報提供を受けることができるなど、充実した生活が営めるまちである	17.1%	>	16.8%	<	52.2%
10	犯罪被害者やその家族が再び平穏に暮らせるようになるために、地域の人々の理解や協力が得られるまちである	13.2%	<	17.6%	<	55.1%
11	LGBTQなど性的マイノリティの人が差別を受けることなく、自分らしく生きることができるまちである	13.7%	<	17.8%	<	53.9%

注)『思う』は「そう思う」「ややそう思う」の合計割合

『思わない』は「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計割合

10. 人権を尊重する立場からみて問題と思われる言動について

(1) 最近5年間で見聞きした経験は

「ある」は32.4%、「ない」は63.2%とほぼ3人に1人は人権を尊重する立場からみて問題と思われる言動を見聞きしています。

(2) どのような人権問題に関するものか

人権を尊重する立場からみて問題と思われる人権問題の上位5位は、①「パワーハラスメント」(14.3%)、②子ども(13.5%)、③女性(11.3%)、④インターネット(9.0%)、⑤障がいのある人(7.5%)となっています。

(3) どのような内容か

人権問題の内容の上位5位は、①あらぬ噂、悪口、かげ口(18.0%)、②名誉棄損、侮辱、暴言(13.5%)、③不平等、不利益な扱い(12.8%)、④いじめ(8.3%)、⑤嫌が

らせ（5.3％）となっています。

11. あなた自身に対する「人権を尊重する立場からみて問題だと思われる言動」 に対してどのような対応をしたか

(1) 対応

「我慢した」が43.8％と最も多く、次いで「相談した」(37.5％)、「抗議・反論した」(25.0％)、「訴えた」(12.5％)となっています。

(2) 対応についての具体的内容

1. 「相談した」…6件

- ・職場の上司/職場の先輩/労基局/市役所相談窓口(無料相談)に行ったが解決できなかった/近所で仲の良い方/友人

2. 「訴えた」……2件

3. 「我慢した」…5件

- ・めんどくさいから、人の悪口を言うのがその人の楽しみのようなので…
- ・上司に反論すると職場にいづらくなると思ったから
- ・こんな人を相手にしても自分が損するだけと思った
- ・いつもと同じ
- ・自分も同じ事をするのが嫌だった

4. 「その他」……2件

- ・相手にするのが時間のムダ
- ・営業をしている中で、この問題が再度

(3) その問題は解決しましたか

「解決しなかった」が68.8％、「解決した」はありませんでした。

ただ、「その他」では次のようなことが示されています。

- ・私に対しては無くなったが、代わりに他の人が被害を受け、再び上司に報告した
- ・そんな人の集まっているところに行かないようにした
- ・一度しか顔をみたことがないので分かりづらい
- ・町に訴えているが返事がない（連絡するとのこと）

12. あなたが見聞きした、あなた以外の方への「人権を尊重する立場からみて問題と思われる言動」に対してどのような対応をしましたか

(1) どのように対応したか

「何もしなかった」は41.6％、「何らかの対応をした」は半数近くを占めています。その対応は、「いけないことと指摘した」が15.9％と最も多く、次いで、「いけないことと分かってもらおうとした」(15.0％)、「相談した」(8.8％)、「同調した」(6.2％)、

「話をそらした」(5.3%)となっています。

● **どこに・誰に 相談した**

- ・ 1～4のすべてが必要だろうと思う
- ・ まず家族で話し合い、行動する
- ・ 自分の言動が他人の人権を侵害しているということに気づかせるためにできるだけ多くの人の倫理感を養い行政や教育機関、団体、企業などあらゆる集団が人権侵害の防止に努める
- ・ 監視、制限
- ・ いじめをしたら重い罰をあたえる
- ・ 地域のボス的存在は減って来ているが未だ一部には残っている。狭い地域での民主化が不徹底な所がある
- ・ 本人が声をあげる

(2) **そのような問題(事案)についてどうしたらよいと思うか**

- 「特に何もしなくてよい」がわずかにみられますが、**4人に1人は「相談窓口の拡充」「学校教育・社会教育の充実」が必要であるとしています。**「相談窓口を拡充する」(26.5%)が最も多く、次いで「学校教育・社会教育を充実する」(25.7%)、「行政が啓発に努める」(16.8%)、「当事者自らが解決策を講じる」(12.4%)の順になっています。
- **人権学習の経験の有無による人権問題事案の対応策**をみると、「人権学習の経験がある」では、人権学習や相談機能の充実や行政の啓発を求めています。これに対し「人権学習の経験がない」は、総じて対応策の検討より当事者自らの解決策を講じることを重視しています。「人権学習の経験がある」では①学校教育・社会教育の充実(26.5%)②相談窓口を拡充(25.5%)③行政の啓発(18.6%)④当事者自らが解決策を講じる(9.8%)と、人権問題事象に対して人権学習や相談機能の充実や行政の啓発を求めています。「人権学習の経験がない」では①当事者自らが解決策を講じる(50.0%)②相談窓口を拡充(25.0%)③学校教育・社会教育の充実(12.5%)と、2人に1人が当事者による解決を求めています。また、「何もしない」は12.5%を占めています。

Ⅲ 調査結果

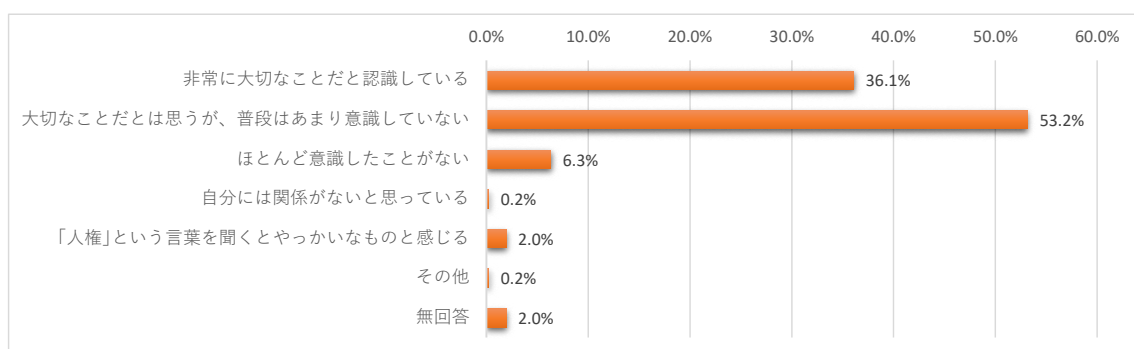
問1 あなたは、「人権」について普段どのように意識していますか

- 「人権」について、ほぼ9割の回答者は「大切なことだ」と思っていますが、半数は「普段はあまり意識していない」となっています。「非常に大切なことだと思うが、普段はあまり意識していない」が53.2%（218件）と最も多く、次いで「非常に大切なことだと認識している」（36.1%・148件）、「ほとんど意識したことはない」（6.3%・26件）、「「人権」という言葉を聞くとやっかいなものと感じる」（2.0%・8件）、「自分には関係がないと思っている」（0.2%・1件）の順になっています。

その他：その事を問題にする事が意識させるのではと思う。皆な同じ人間なので
ですから

- 認識度が高い「非常に大切なことだと認識している」を**年齢別**にみると、「60～69歳」が42.5%、「20歳未満」が42.1%、「70～79歳」が40.7%と、「60～79歳」の年齢層、いわゆる『団塊の世代』は人権への認識の高いことが表れています。
- **人権学習の経験別**にみると、職場や学校などで、人権に関して学んだ経験が「ある」が38.9%、「ない」は26.0%と12.3ポイントの差が見られ、人権学習の経験の有無が人権の認識に影響していることが表れています。

図表.人権意識(N=410)



項目	件数	構成比(%)
非常に大切なことだと認識している	148	36.1%
大切なことだとは思いますが、普段はあまり意識していない	218	53.2%
ほとんど意識したことがない	26	6.3%
自分には関係がないと思っている	1	0.2%
「人権」という言葉を聞くとやっかいなものと感じる	8	2.0%
その他	1	0.2%
無回答	8	2.0%
合計	410	100.0%

表.年齢別人権意識

項目	件数	構成比(%)	20未満	20未満(%)	20-29	20-29(%)	30-39	30-39(%)	40-49	40-49(%)	50-59	50-59(%)	60-69	60-69(%)	70-79	70-79(%)	80以上	80以上(%)	無回答	無回答(%)
非常に大切なことだと認識している	148	36.1%	8	42.1%	11	36.7%	4	18.2%	21	35.0%	22	34.4%	31	42.5%	37	40.7%	14	28.0%	0	0.0%
大切なことだとは思いますが、普段はあまり意識していない	218	53.2%	8	42.1%	14	46.7%	16	72.7%	35	58.3%	39	60.9%	35	47.9%	43	47.3%	28	56.0%	0	0.0%
ほとんど意識したことがない	26	6.3%	3	15.8%	3	10.0%	1	4.5%	2	3.3%	2	3.1%	3	4.1%	9	9.9%	3	6.0%	0	0.0%
自分には関係がないと思っている	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	0	0.0%
「人権」という言葉を聞くとやっかいなものと感じる	8	2.0%	0	0.0%	2	6.7%	0	0.0%	1	1.7%	1	1.6%	2	2.7%	1	1.1%	1	2.0%	0	0.0%
その他	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	8	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	1	1.7%	0	0.0%	2	2.7%	0	0.0%	3	6.0%	1	100.0%
合計	410	100.0%	19	100.0%	30	100.0%	22	100.0%	60	100.0%	64	100.0%	73	100.0%	91	100.0%	50	100.0%	1	100.0%

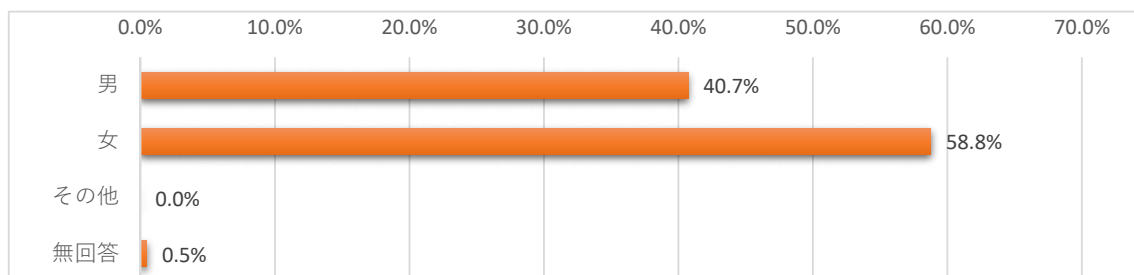
表.人権学習経験別人権意識

項目	件数	構成比(%)	ある	ある(%)	ない	ない(%)	その他	その他(%)	無回答	無回答(%)
非常に大切なことだと認識している	148	36.1%	126	38.9%	20	26.0%	0	0.0%	2	25.0%
大切なことだとは思いますが、普段はあまり意識していない	218	53.2%	168	51.9%	46	59.7%	1	100.0%	3	37.5%
ほとんど意識したことがない	26	6.3%	19	5.9%	7	9.1%	0	0.0%	0	0.0%
自分には関係がないと思っている	1	0.2%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
「人権」という言葉を聞くとやっかいなものと感じる	8	2.0%	7	2.2%	1	1.3%	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	0.2%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	8	2.0%	2	0.6%	3	3.9%	0	0.0%	3	37.5%
合計	410	100.0%	324	100.0%	77	100.0%	1	100.0%	8	100.0%

問2 あなたの性別は

「男性」は 40.7% (167 件)、「女性」は 58.8% (241 件) と女性が 18.1 ポイント高くなっています。

図表. 性別(N=410)

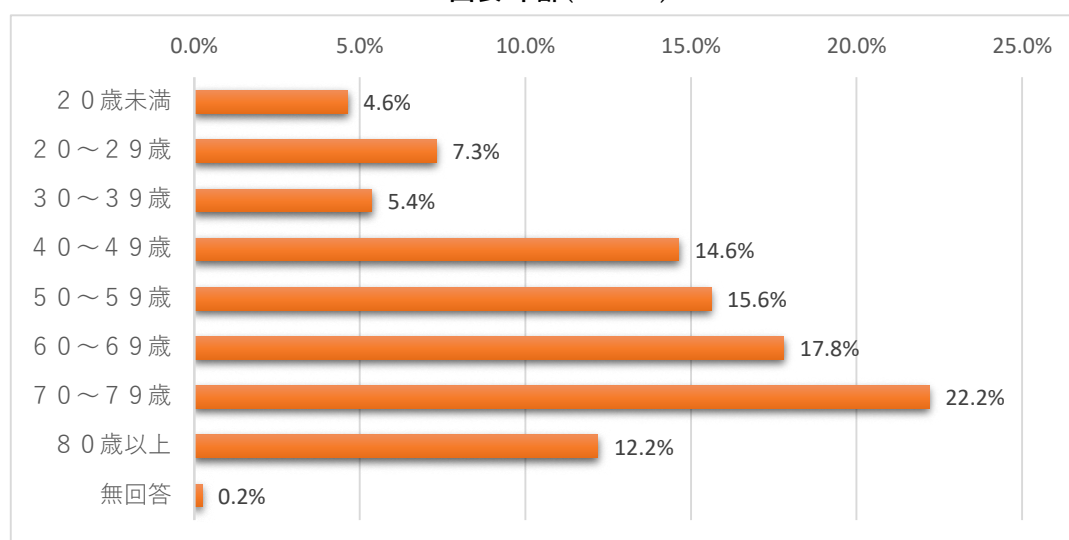


項目	件数	構成比(%)
男	167	40.7%
女	241	58.8%
その他	0	0.0%
無回答	2	0.5%
合計	410	100.0%

問3 令和2年5月1日現在のあなたの年齢は

2人に1人が60歳以上の高齢者となっています。「70～79歳」が22.2%（91件）と最も多く、次いで「60～69歳」（17.8%・73件）、「50～59歳」（15.6%・64件）、「40～49歳」（14.6%・60件）、「80歳以上」（12.2%・50件）、「20～29歳」（7.3%・30件）、「30～39歳」（5.4%・22件）、「20歳未満」（4.6%・19件）の順になっています。

図表.年齢(N=410)



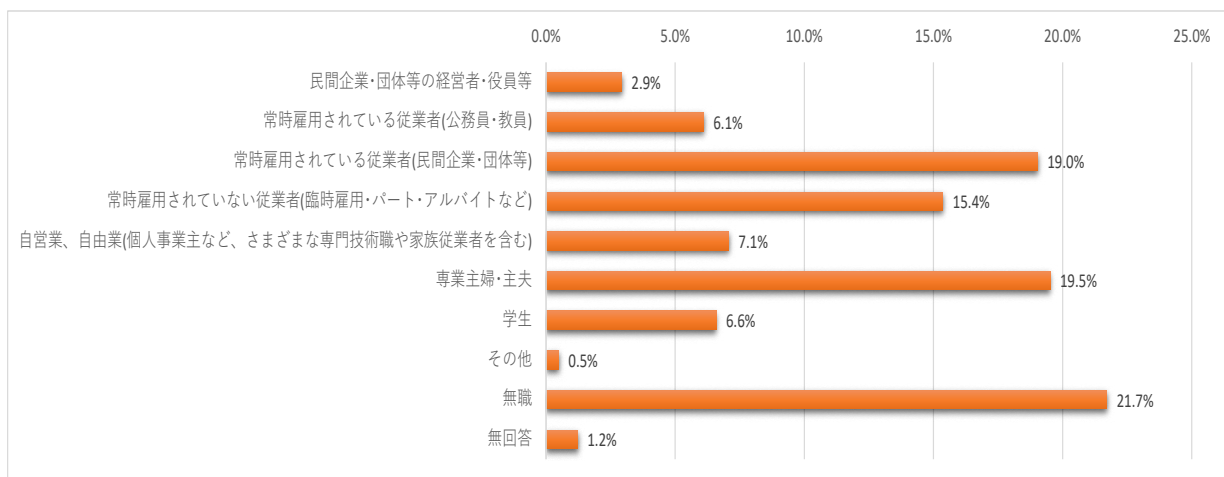
項目	件数	構成比(%)
20歳未満	19	4.6%
20～29歳	30	7.3%
30～39歳	22	5.4%
40～49歳	60	14.6%
50～59歳	64	15.6%
60～69歳	73	17.8%
70～79歳	91	22.2%
80歳以上	50	12.2%
無回答	1	0.2%
合計	410	100.0%

問4 あなたの職業等は

職業は「無職」が21.7%（89件）と最も多く、次いで「専業主婦・主夫」（19.5%・80件）となっており、これらに「学生」（6.6%・27件）を加えると47.8%が職業を有していないことが表れています。有職では「常時雇用されている従業者（民間企業・団体等）」が19.0%（78件）と最も多く、次いで「常時雇用されていない従業者（臨時雇用・パート・アルバイト等）」（15.4%・63件）、「常時雇用されている従業者（公務員・教員）」（6.1%・25件）、「民間企業・団体等の経営者・役員等」（2.9%・12件）の順になっています。常時雇用従業者は25.1%と非常時雇用従業者より9.7ポイント高くなっています。

その他：農業

図表.職業(N=410)



項目	件数	構成比(%)
民間企業・団体等の経営者・役員等	12	2.9%
常時雇用されている従業者(公務員・教員)	25	6.1%
常時雇用されている従業者(民間企業・団体等)	78	19.0%
常時雇用されていない従業者(臨時雇用・パート・アルバイトなど)	63	15.4%
自営業、自由業(個人事業主など、さまざまな専門技術職や家族従業者を含む)	29	7.1%
専業主婦・主夫	80	19.5%
学生	27	6.6%
その他	2	0.5%
無職	89	21.7%
無回答	5	1.2%
合計	410	100.0%

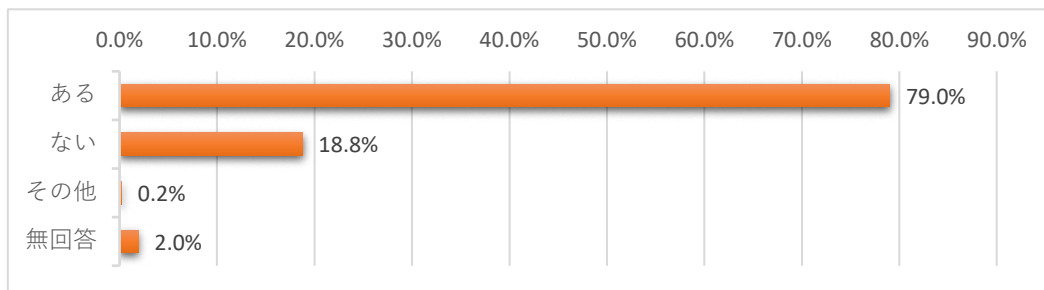
問5 あなたは職場や学校などで、人権に関して学んだ経験はありますか

- 「ある」は79.0% (324件)、「ない」は18.8%(77件)とほぼ8割が人権に関して学んだ経験を有しています。

その他：昔はあまり言わなかった

- **年齢別**に人権学習の経験をみると、経験が「ある」は、「20歳未満」「20～29歳」は100%、次いで「40～49歳」(96.7%)、「30～39歳」(90.9%)、「50～59歳」(89.1%)、「60～69歳」(78.1%)、「70～79歳」(65.9%)、「80歳以上」(46.0%)と、年齢が高くなるほど人権学習の経験の割合は低くなっています。

図表.人権学習経験(N=410)



項目	件数	構成比(%)
ある	324	79.0%
ない	77	18.8%
その他	1	0.2%
無回答	8	2.0%
合計	410	100.0%

表.年齢別人権学習経験

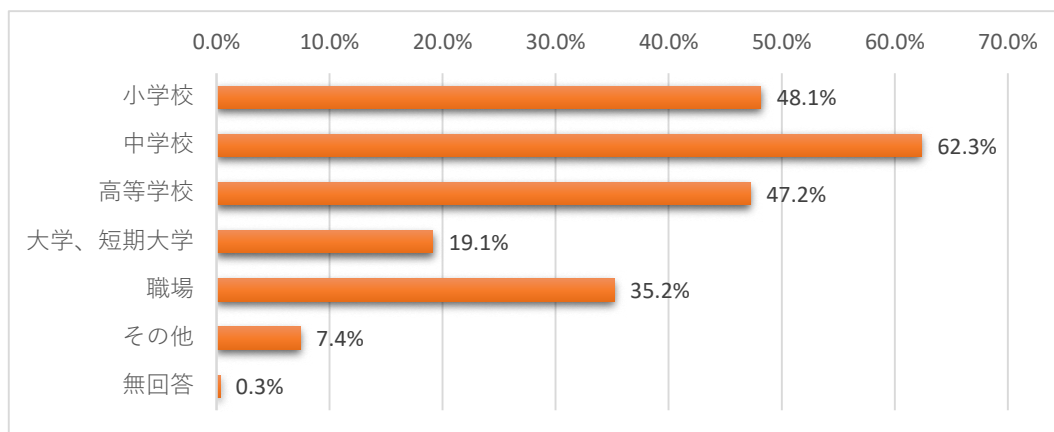
項目	件数	構成比(%)	20未満	20未満(%)	20-29	20-29(%)	30-39	30-39(%)	40-49	40-49(%)	50-59	50-59(%)	60-69	60-69(%)	70-79	70-79(%)	80以上	80以上(%)	無回答	無回答(%)
ある	324	79.0%	19	100.0%	30	100.0%	20	90.9%	58	96.7%	57	89.1%	57	78.1%	60	65.9%	23	46.0%	0	0.0%
ない	77	18.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	2	3.3%	7	10.9%	16	21.9%	29	31.9%	22	44.0%	0	0.0%
その他	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	8	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	5	10.0%	1	100.0%
合計	410	100.0%	19	100.0%	30	100.0%	22	100.0%	60	100.0%	64	100.0%	73	100.0%	91	100.0%	50	100.0%	1	100.0%

問5-1 人権に関してどこで学びましたか

人権学習の場は、「中学校」が62.3% (202件) と最も多く、次いで「小学校」(48.1%・156件)、「高等学校」(47.2%・153件)、「職場」(35.2%・114件)、「大学・短期大学」(19.1%・62件)の順になっており、なかでも「中学校」の割合は顕著に高くなっています。

その他：・町内の集り等/映画(本)・書物/講演会(2)/研修会/専門学校(2)/労働組合・労働組合員として/PTA(3)/人権大学 /独学/ 家族(家庭)・新聞(3)/人権大学/親・友人/太子町婦人会活動/仕事の関係/HRC

図表.人権学習の場(N=324 複数回答)



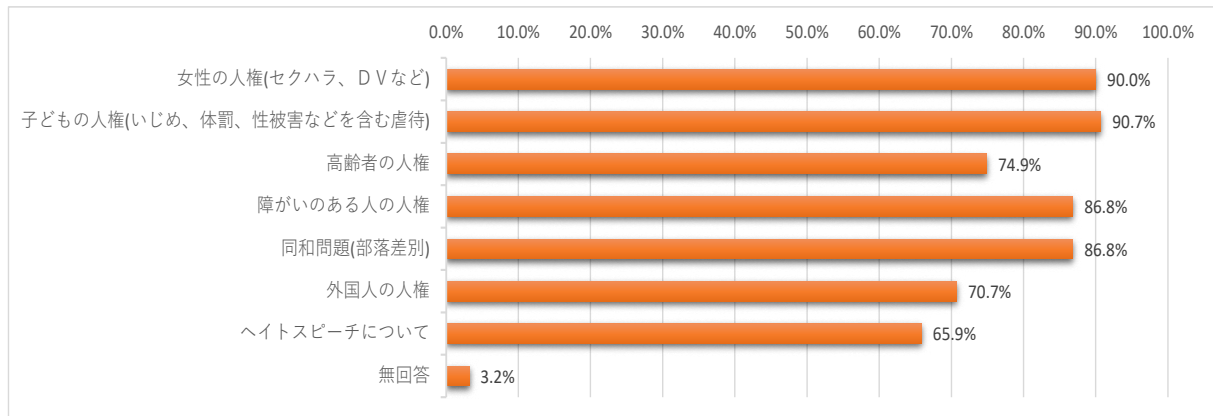
項目	件数	構成比(%)
小学校	156	48.1%
中学校	202	62.3%
高等学校	153	47.2%
大学、短期大学	62	19.1%
職場	114	35.2%
その他	24	7.4%
無回答	1	0.3%
合計	712	

問6 あなたは、人権課題について知っていますか。またそれをどのようなきっかけで知りましたか

問6 人権課題について知っていますか

- 「子どもの人権」が90.7%（372件）と最も多く、次いで「女性の人権」（90.0%・369件）、「障がいのある人の人権」「同和問題（部落差別）」（いずれも86.8%・356件）、「高齢者の人権」（74.9%・307件）、「外国人の人権」（70.7%・290件）、「ヘイトスピーチについて」（65.9%・270件）の順になっています。
- **年齢別**に人権課題の認知度(人権課題を知っている度合)をみると、総じて「80歳以上」は全項目にわたり全体より認知度が低く、また「20歳未満」では「同和問題(部落差別)」、「ヘイトスピーチ」、「70～79歳」は「女性の人権」「子どもの人権」となっています。

図表.人権課題の認知度(N=410 複数回答)



項目	件数	構成比(%)
女性の人権(セクハラ、DVなど)	369	90.0%
子どもの人権(いじめ、体罰、性被害などを含む虐待)	372	90.7%
高齢者の人権	307	74.9%
障がいのある人の人権	356	86.8%
同和問題(部落差別)	356	86.8%
外国人の人権	290	70.7%
ヘイトスピーチについて	270	65.9%
無回答	13	3.2%
合計	2,333	

表.年齢別人権課題の認知度

項目	件数	構成比(%)	20未満	20未満(%)	20-29	20-29(%)	30-39	30-39(%)	40-49	40-49(%)	50-59	50-59(%)	60-69	60-69(%)	70-79	70-79(%)	80以上	80以上(%)	無回答	無回答(%)
女性の人権(セクハラ、DVなど)	369	90.0%	19	100.0%	29	96.7%	21	95.5%	59	98.3%	63	98.4%	68	93.2%	77	84.6%	33	66.0%	0	0.0%
子どもの人権(いじめ、体罰、性被害などを含む虐待)	372	90.7%	18	94.7%	29	96.7%	21	95.5%	58	96.7%	61	95.3%	71	97.3%	78	85.7%	36	72.0%	0	0.0%
高齢者の人権	307	74.9%	14	73.7%	23	76.7%	18	81.8%	44	73.3%	50	78.1%	60	82.2%	70	76.9%	28	56.0%	0	0.0%
障がいのある人の人権	356	86.8%	16	84.2%	28	93.3%	21	95.5%	59	98.3%	59	92.2%	66	90.4%	76	83.5%	31	62.0%	0	0.0%
同和問題(部落差別)	356	86.8%	15	78.9%	25	83.3%	19	86.4%	56	93.3%	61	95.3%	65	89.0%	79	86.8%	36	72.0%	0	0.0%
外国人の人権	290	70.7%	14	73.7%	22	73.3%	19	86.4%	49	81.7%	54	84.4%	53	72.6%	60	65.9%	19	38.0%	0	0.0%
ヘイトスピーチについて	270	65.9%	10	52.6%	20	66.7%	15	68.2%	45	75.0%	48	75.0%	50	68.5%	62	68.1%	20	40.0%	0	0.0%
無回答	13	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	5.5%	6	12.0%	1	100.0%
合計	2,333		106		176		135		370		396		433		507		209		1	

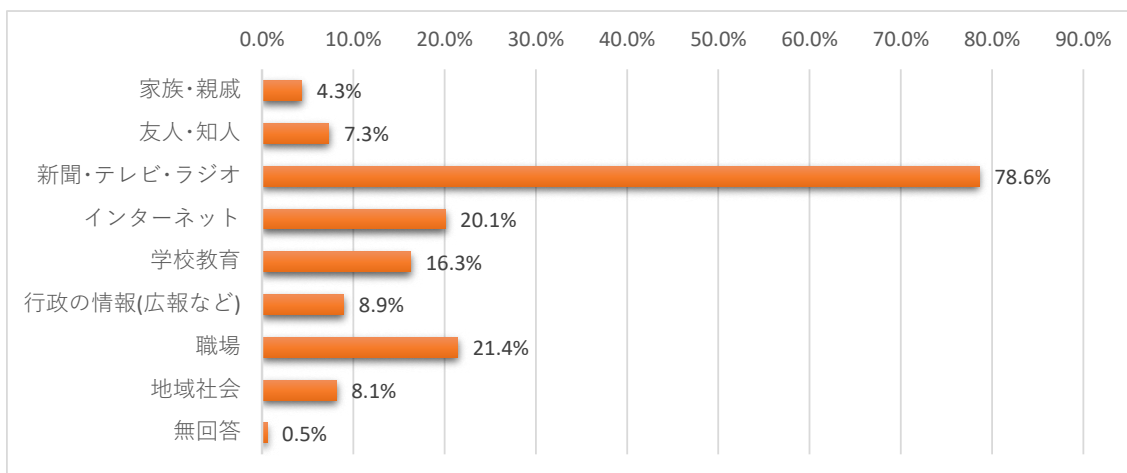
注) 黄色のセルは全体平均より概ね5ポイント割合が低いことを示しています

問6 それをどのようなきっかけで知りましたか

(1) 女性の人権(セクハラ、DVなど)

「新聞・テレビ・ラジオ」が78.6%(290件)と最も多く、次いで「職場」(21.4%・79件)、「インターネット」(20.1%・74件)、「学校教育」(16.3%・60件)、「行政の情報(広報など)」(8.9%・33件)の順になっています。

図表.女性の人権(N=369 複数回答)

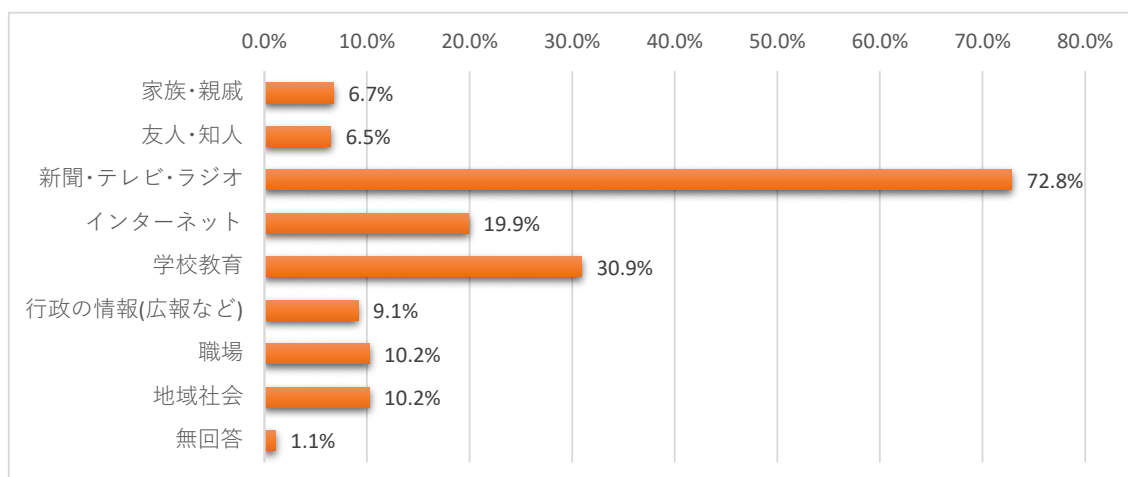


項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	16	4.3%
友人・知人	27	7.3%
新聞・テレビ・ラジオ	290	78.6%
インターネット	74	20.1%
学校教育	60	16.3%
行政の情報(広報など)	33	8.9%
職場	79	21.4%
地域社会	30	8.1%
無回答	2	0.5%
合計	611	

(2) 子どもの人権 (いじめ、体罰、性被害などを含む虐待)

「新聞・テレビ・ラジオ」が72.8% (271件) と最も多く、次いで「学校教育」(30.9%・115件)、「インターネット」(19.9%・74件)、「職場」「地域社会」(いずれも10.2%・38件)、「行政の情報(広報など)」(9.1%・34件)の順になっています。

図表.子どもの人権(N=372 複数回答)

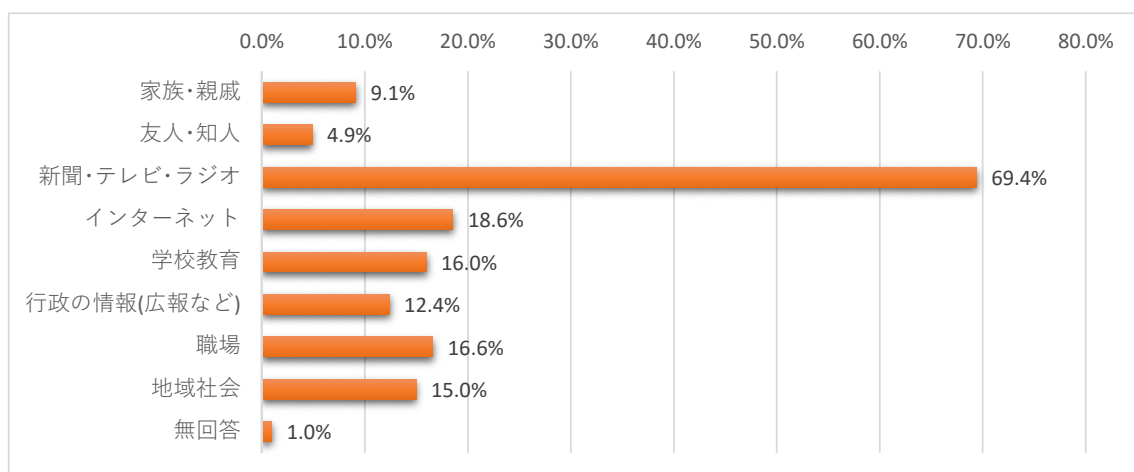


項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	25	6.7%
友人・知人	24	6.5%
新聞・テレビ・ラジオ	271	72.8%
インターネット	74	19.9%
学校教育	115	30.9%
行政の情報(広報など)	34	9.1%
職場	38	10.2%
地域社会	38	10.2%
無回答	4	1.1%
合計	623	

(3) 高齢者の人権

「新聞・テレビ・ラジオ」が69.4%（213件）と最も多く、次いで「インターネット」（18.6%・57件）、「職場」（16.6%・51件）、「学校教育」（16.0%・49件）、「地域社会」（15.0%・46件）の順になっています。

図表.高齢者の人権(N=307 複数回答)

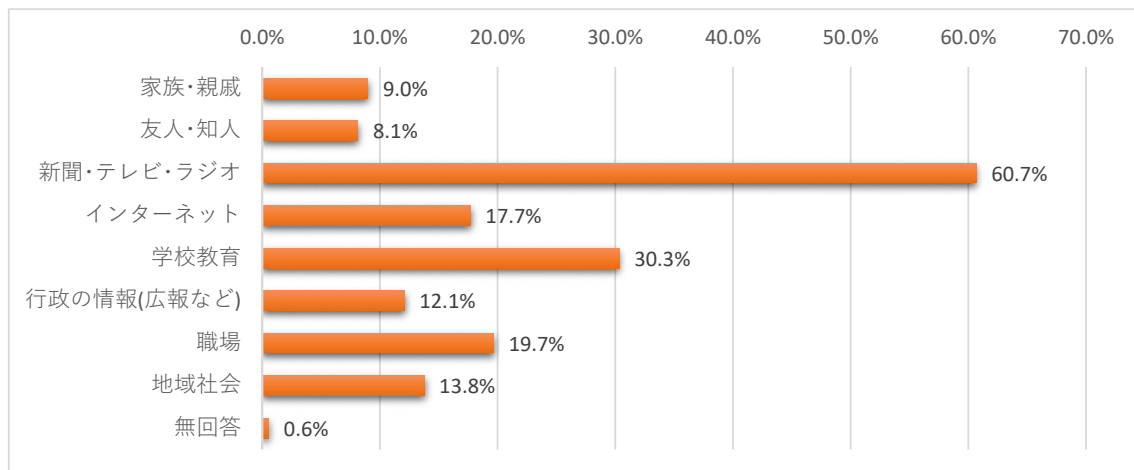


項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	28	9.1%
友人・知人	15	4.9%
新聞・テレビ・ラジオ	213	69.4%
インターネット	57	18.6%
学校教育	49	16.0%
行政の情報(広報など)	38	12.4%
職場	51	16.6%
地域社会	46	15.0%
無回答	3	1.0%
合計	500	

(4) 障がいのある人の人権

「新聞・テレビ・ラジオ」が 60.7% (216 件) と圧倒的に多く、次いで「学校教育」(30.3%・108 件)、「職場」(19.7%・70 件)、「インターネット」(17.7%・63 件)、「地域社会」(13.8%・49 件) の順になっています。

図表.障がい者の人権(N=356 複数回答)

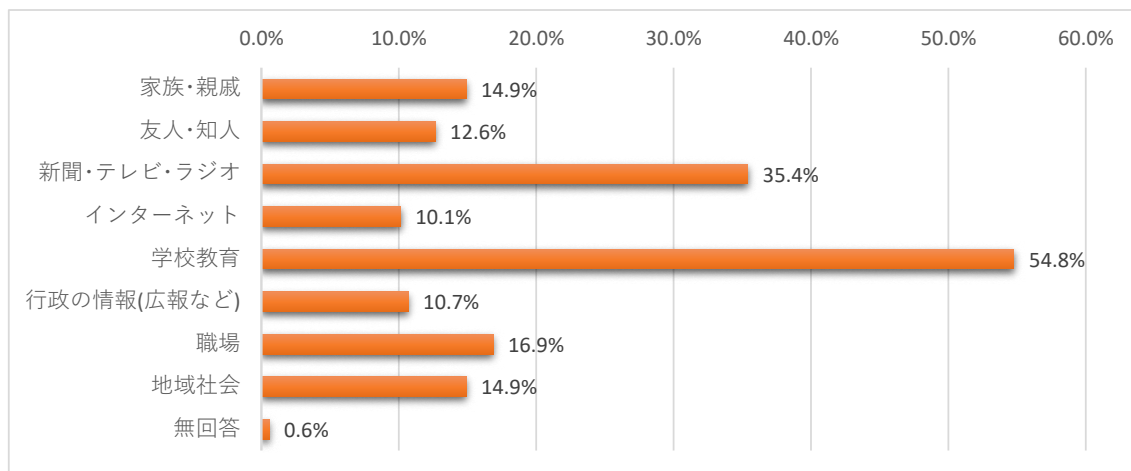


項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	32	9.0%
友人・知人	29	8.1%
新聞・テレビ・ラジオ	216	60.7%
インターネット	63	17.7%
学校教育	108	30.3%
行政の情報(広報など)	43	12.1%
職場	70	19.7%
地域社会	49	13.8%
無回答	2	0.6%
合計	612	

(5) 同和問題 (部落差別)

「学校教育」が 54.8% (195 件) と最も多く、次いで「新聞・テレビ・ラジオ」(35.4%・126 件)、「職場」(16.9%・60 件)、「家族・親戚」「地域社会」(いずれも 14.9%・53 件)、「知人・友人」(12.6%・45 件) の順になっており、「学校教育」が同和問題に重要な役割を果たしていることが表れています。

図表.同和問題(部落差別)(N=356 複数回答)

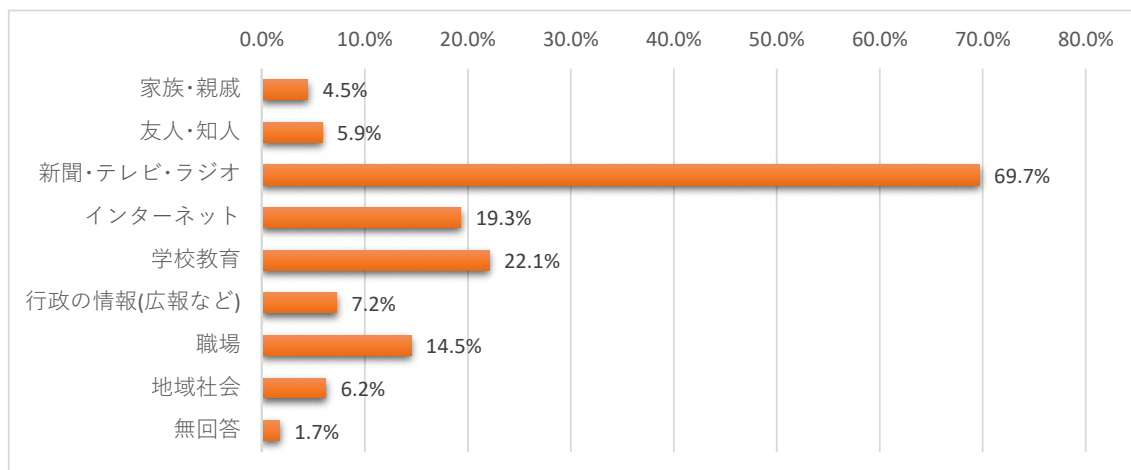


項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	53	14.9%
友人・知人	45	12.6%
新聞・テレビ・ラジオ	126	35.4%
インターネット	36	10.1%
学校教育	195	54.8%
行政の情報(広報など)	38	10.7%
職場	60	16.9%
地域社会	53	14.9%
無回答	2	0.6%
合計	608	

(6) 外国人の人権

「新聞・テレビ・ラジオ」が 69.7% (202 件) と最も多く、次いで「学校教育」(22.1%・64 件)、「インターネット」(19.3%・56 件)、「職場」(14.5%・42 件)、「行政の情報(広報など)」(7.2%・21 件) の順になっています。

図表.外国人の人権(N=290 複数回答)

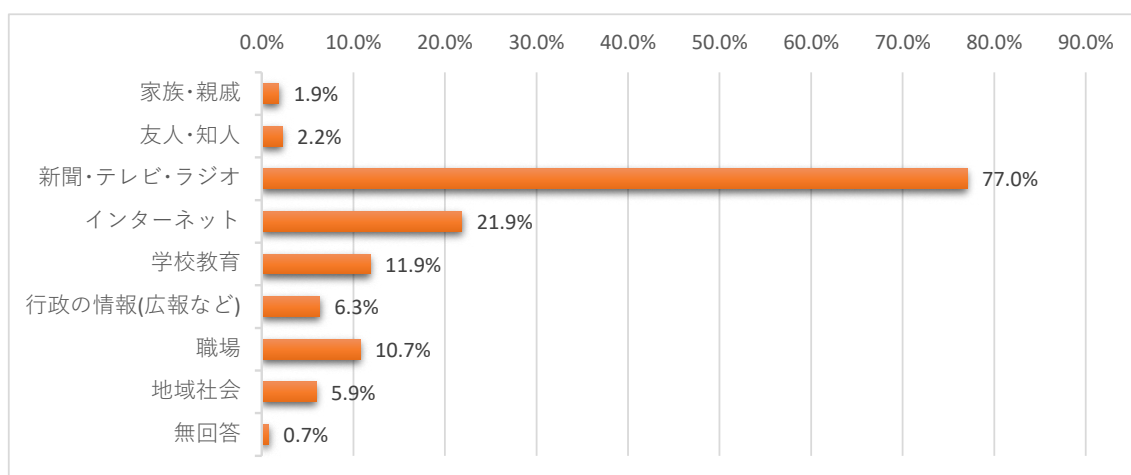


項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	13	4.5%
友人・知人	17	5.9%
新聞・テレビ・ラジオ	202	69.7%
インターネット	56	19.3%
学校教育	64	22.1%
行政の情報(広報など)	21	7.2%
職場	42	14.5%
地域社会	18	6.2%
無回答	5	1.7%
合計	438	

(7) ヘイトスピーチについて

「新聞・テレビ・ラジオ」が77.0% (208件) と最も多く、次いで「インターネット」(21.9%・59件)、「学校教育」(11.9%・32件)、「職場」(10.7%・29件)、「行政の情報(広報など)」(6.3%・17件)の順になっています。

図表.ヘイトスピーチについて(N=270 複数回答)



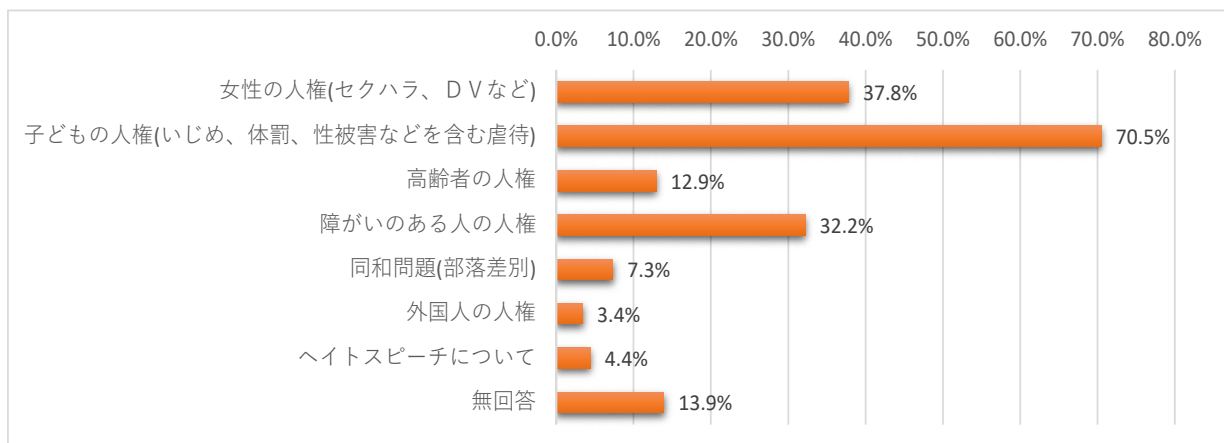
項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	5	1.9%
友人・知人	6	2.2%
新聞・テレビ・ラジオ	208	77.0%
インターネット	59	21.9%
学校教育	32	11.9%
行政の情報(広報など)	17	6.3%
職場	29	10.7%
地域社会	16	5.9%
無回答	2	0.7%
合計	374	

問6－1 問6の(1)から(7)のうち特に対応すべき人権課題はどれだと思いますか。

- 「子どもの人権（いじめ、体罰、性被害などを含む虐待）」が70.5%（289件）と圧倒的に多く、次いで「女性の人権（セクハラ、DVなど）」（37.8%・155件）、「障がいのある人の人権」（32.2%・132件）、「高齢者の人権」（12.9%・53件）、「同和問題（部落差別）」（7.3%・30件）、「ヘイトスピーチ」（4.4%・18件）、「外国人の人権」（3.4%・14件）の順になっています。
- 特に対応すべき人権課題別に年齢をみると（上位3位）、「障がいのある人の人権」「高齢者の人権」は、50歳から年齢が高くなるほど割合が高くなる傾向がみられます。「同和問題（部落差別）」では、70歳以上の高齢者の割合が高いものの、最も年齢の低い20歳未満が上位にある、さらに「外国人の人権」では「30～49歳」と「20歳未満」の比較的若い層が上位を占めているという特徴がみられます。

- ①子どもの人権…①60～69歳（20.8%）②70～79歳（19.4%）③40～49歳（17.3%）
- ②女性の人権 …①60～69歳（20.8%）②50～59歳（20.0%）③40～49歳（17.4%）
- ③障がいのある人の人権…①70～79歳（28.8%）②60～69歳（17.4%）③50～59歳（15.2%）
- ④高齢者の人権…①70～79歳（28.3%）②60～69歳（18.9%）③50～59歳（15.1%）
- ⑤同和問題（部落差別）…①70～79歳（36.7%）②80歳以上（20.0%）③20歳未満・50～59歳（いずれも13.3%）」
- ⑥ヘイトスピーチ…①50～59歳（27.8%）②70～79歳（22.2%）③60～69歳（16.7%）
- ⑦外国人の人権…①30～39歳・40～49歳・70～79歳（いずれも21.4%）②20歳未満（いずれも14.3%）③60～69歳（7.1%）

図表.特に対応すべき人権課題(N=410 2LA)



項目	件数	構成比(%)
女性の人権(セクハラ、DVなど)	155	37.8%
子どもの人権(いじめ、体罰、性被害などを含む虐待)	289	70.5%
高齢者の人権	53	12.9%
障がいのある人の人権	132	32.2%
同和問題(部落差別)	30	7.3%
外国人の人権	14	3.4%
ヘイトスピーチについて	18	4.4%
無回答	57	13.9%
合計	748	

表.特に対応すべき人権課題別年齢

項目	件数	構成比(%)	20未満	20未満(%)	20-29	20-29(%)	30-39	30-39(%)	40-49	40-49(%)	50-59	50-59(%)	60-69	60-69(%)	70-79	70-79(%)	80以上	80以上(%)	無回答	無回答(%)
女性の人権(セクハラ、DVなど)	155	37.8%	7	4.5%	11	7.1%	11	7.1%	27	17.4%	31	20.0%	32	20.6%	25	16.1%	11	7.1%	0	0.0%
子どもの人権(いじめ、体罰、性被害などを含む虐待)	289	70.5%	11	3.8%	26	9.0%	16	5.5%	50	17.3%	45	15.6%	60	20.8%	56	19.4%	25	8.7%	0	0.0%
高齢者の人権	53	12.9%	1	1.9%	6	11.3%	2	3.8%	5	9.4%	8	15.1%	10	18.9%	15	28.3%	6	11.3%	0	0.0%
障がいのある人の人権	132	32.2%	5	3.8%	10	7.6%	5	3.8%	18	13.6%	20	15.2%	23	17.4%	38	28.8%	13	9.8%	0	0.0%
同和問題(部落差別)	30	7.3%	4	13.3%	1	3.3%	0	0.0%	2	6.7%	4	13.3%	2	6.7%	11	36.7%	6	20.0%	0	0.0%
外国人の人権	14	3.4%	2	14.3%	0	0.0%	3	21.4%	3	21.4%	2	14.3%	1	7.1%	3	21.4%	0	0.0%	0	0.0%
ヘイトスピーチについて	18	4.4%	2	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	11.1%	5	27.8%	3	16.7%	4	22.2%	2	11.1%	0	0.0%
無回答	57	13.9%	2	3.5%	3	5.3%	3	5.3%	6	10.5%	5	8.8%	7	12.3%	12	21.1%	18	31.6%	1	1.8%
合計	748		34	4.5%	57	7.6%	40	5.3%	113	15.1%	120	16.0%	138	18.4%	164	21.9%	81	10.8%	1	0.1%

問7 あなたは、次の考え方に対してどのように思いますか

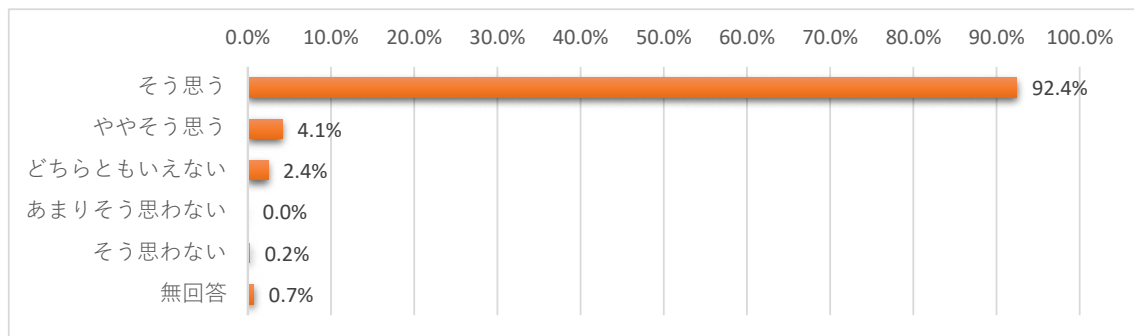
※回答者の主な傾向をみるため、『思う』を「そう思う」と「ややそう思う」の合計割合で、『思わない』を「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計割合でみています。

【男女共同参画】

(1) 夫婦の間であっても、暴力をふるうことは許されない

『思う』は96.5%、『思わない』は0.2%となっています。「そう思う」が92.4%（379件）と最も多く、次いで「ややそう思う」（4.1%・17件）、「どちらともいえない」（2.4%・10件）、「そう思わない」（0.2%・1件）の順になっています。

図表.考え方（N=410）

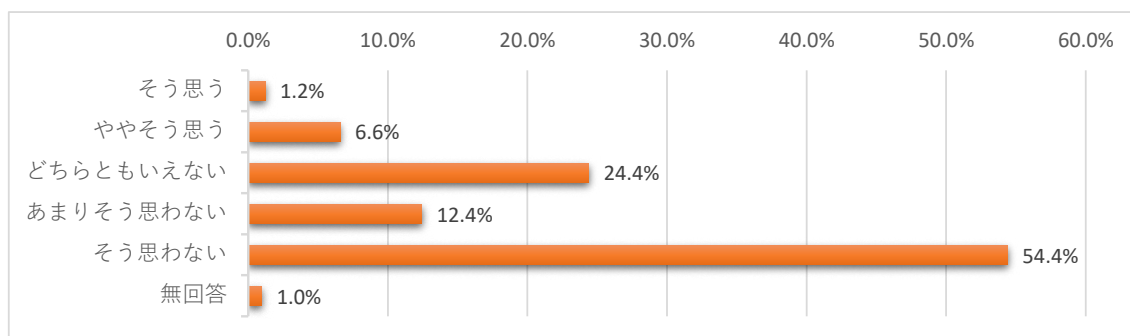


項目	件数	構成比(%)
そう思う	379	92.4%
ややそう思う	17	4.1%
どちらともいえない	10	2.4%
あまりそう思わない	0	0.0%
そう思わない	1	0.2%
無回答	3	0.7%
合計	410	100.0%

(2) 親の世話や介護は、女性の役割である

『思わない』は66.8%、『思う』は7.8%となっています。「そう思わない」が54.4%（223件）が最も多く、次いで「どちらともいえない」（24.4%・100件）、「あまりそう思わない」（12.4%・51件）、「ややそう思う」（6.6%・27件）、「そう思う」（1.2%・5件）の順になっています。

図表.考え方 (N=410)

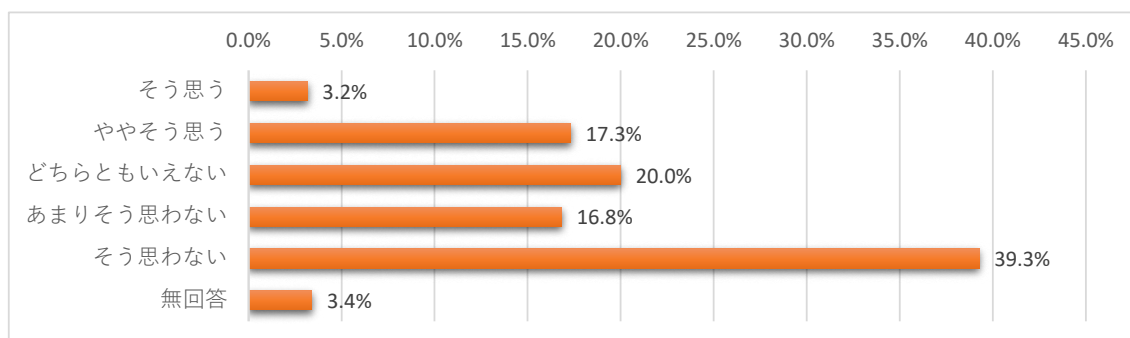


項目	件数	構成比(%)
そう思う	5	1.2%
ややそう思う	27	6.6%
どちらともいえない	100	24.4%
あまりそう思わない	51	12.4%
そう思わない	223	54.4%
無回答	4	1.0%
合計	410	100.0%

(3) 採用や昇任など、職場での男女の待遇の違いはやむを得ない

『思わない』は56.1%、『思う』は20.5%となっています。「そう思わない」が39.3% (161件)と最も多く、次いで「どちらともいえない」(20.0%・82件)、「ややそう思う」(17.3%・71件)、「あまりそう思わない」(16.8%・69件)、「そう思う」(3.2%・13件)の順になっています。

図表.考え方 (N=410)



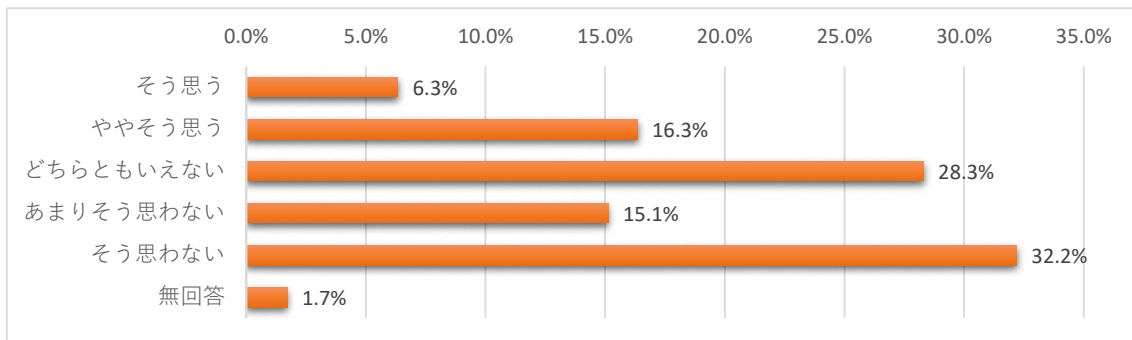
項目	件数	構成比(%)
そう思う	13	3.2%
ややそう思う	71	17.3%
どちらともいえない	82	20.0%
あまりそう思わない	69	16.8%
そう思わない	161	39.3%
無回答	14	3.4%
合計	410	100.0%

【子ども】

(4) いじめは、いじめられる側にも問題がある

『思わない』は47.3%、『思う』は22.6%となっています。「そう思わない」が32.2%（132件）と最も多く、次いで「どちらともいえない」（28.3%・116件）、「ややそう思う」（16.3%・67件）、「あまりそう思わない」（15.1%・62件）、「そう思う」（6.3%・26件）の順になっています。

図表.考え方（N=410）

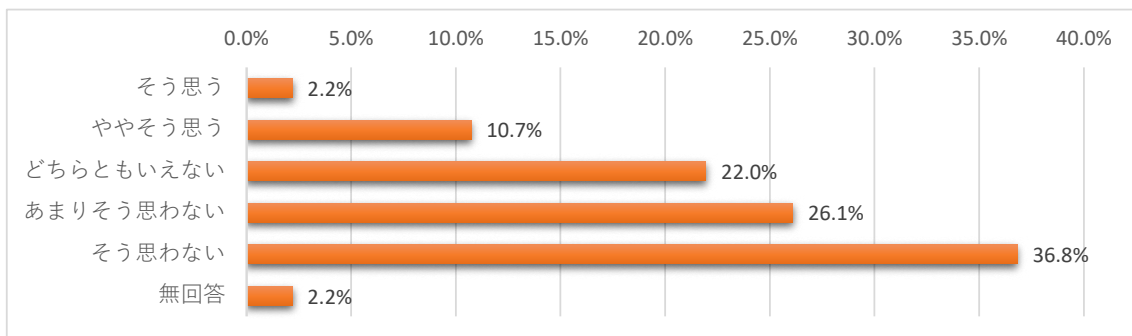


項目	件数	構成比(%)
そう思う	26	6.3%
ややそう思う	67	16.3%
どちらともいえない	116	28.3%
あまりそう思わない	62	15.1%
そう思わない	132	32.2%
無回答	7	1.7%
合計	410	100.0%

(5) 子どもは、保護者や大人の意見に従えばよい

『思わない』は62.9%、『思う』は12.9%となっています。「そう思わない」が36.8%（151件）と最も多く、次いで「あまりそう思わない」（26.1%・107件）、「どちらともいえない」（22.0%・90件）、「ややそう思う」（10.7%・44件）、「そう思う」（2.2%・9件）の順になっています。

図表.考え方（N=410）



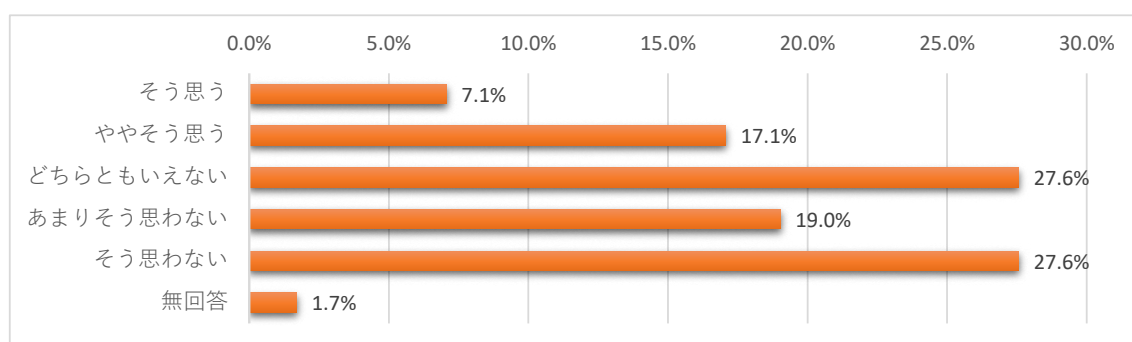
項目	件数	構成比(%)
そう思う	9	2.2%
ややそう思う	44	10.7%
どちらともいえない	90	22.0%
あまりそう思わない	107	26.1%
そう思わない	151	36.8%
無回答	9	2.2%
合計	410	100.0%

【高齢者】

(6) 高齢者は、あまり自己主張せず、家族やまわりの者の言うことを聞いた方がよい

『思わない』は 46.6%、『思う』は 24.2%となっています。「そう思わない」「どちらともいえない」(いずれも 27.6%・113 件)が最も多く、次いで「あまりそう思わない」(19.0%・78 件)、「ややそう思う」(17.1%・70 件)、「そう思う」(7.1%・29 件)の順になっています。

図表.考え方 (N=410)

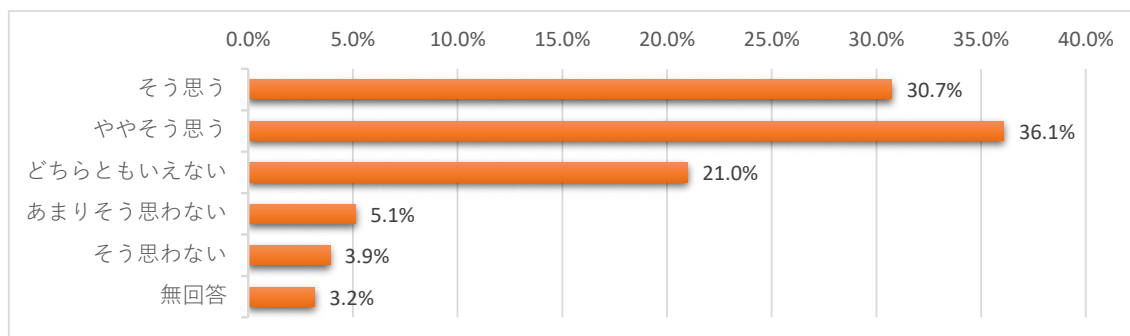


項目	件数	構成比(%)
そう思う	29	7.1%
ややそう思う	70	17.1%
どちらともいえない	113	27.6%
あまりそう思わない	78	19.0%
そう思わない	113	27.6%
無回答	7	1.7%
合計	410	100.0%

(7) 働く意欲や能力がある高齢者の雇用や待遇が十分に保障されていないのはおかしい

『思う』は 66.8%、『思わない』は 9.0%となっています。「ややそう思う」が 36.1% (148 件)と最も多く、次いで「そう思う」(30.7%・126 件)、「どちらともいえない」(21.0%・86 件)、「あまりそう思わない」(5.1%・21 件)、「そう思わない」(3.9%・16 件)の順になっています。

図表.考え方 (N=410)



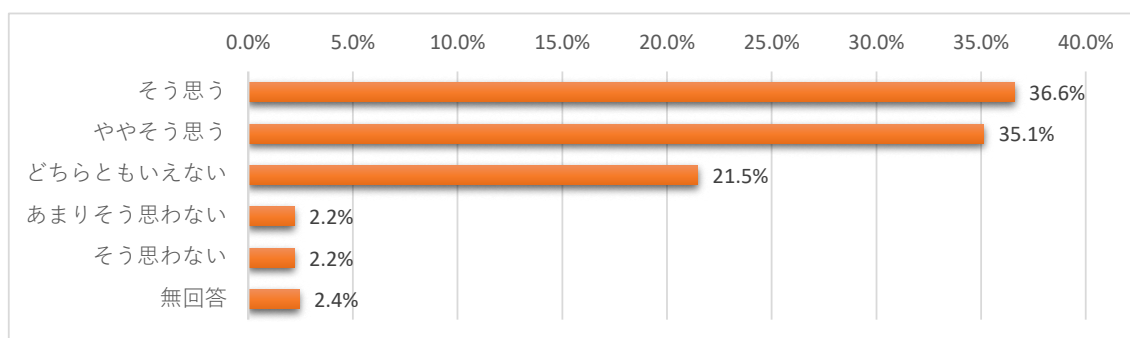
項目	件数	構成比(%)
そう思う	126	30.7%
ややそう思う	148	36.1%
どちらともいえない	86	21.0%
あまりそう思わない	21	5.1%
そう思わない	16	3.9%
無回答	13	3.2%
合計	410	100.0%

【障がいのある人】

(8) 障がいのある人が社会参加しやすくするために、地域住民が交流する機会を増やすべきだ

『思う』は71.7%、『思わない』は4.4%となっています。「そう思う」が36.6%（150件）と最も多く、次いで「ややそう思う」（35.1%・144件）、「どちらともいえない」（21.5%・88件）、「あまりそう思わない」「そう思わない」（いずれも2.2%・9件）の順になっています。

図表.考え方 (N=410)

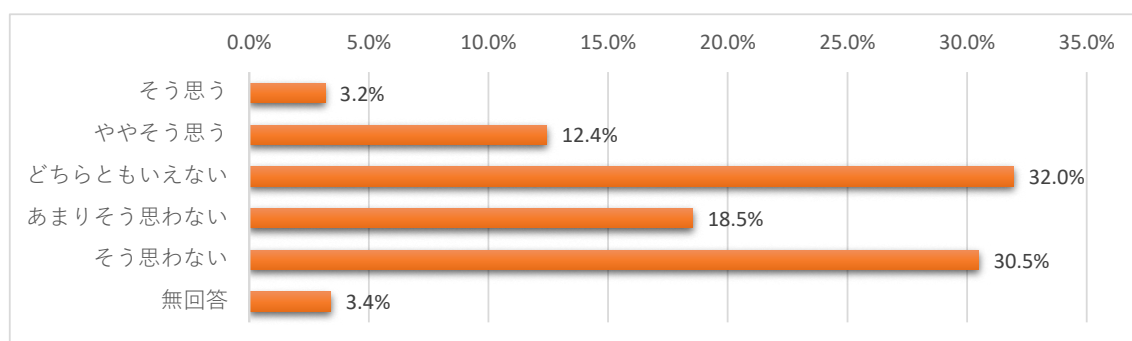


項目	件数	構成比(%)
そう思う	150	36.6%
ややそう思う	144	35.1%
どちらともいえない	88	21.5%
あまりそう思わない	9	2.2%
そう思わない	9	2.2%
無回答	10	2.4%
合計	410	100.0%

(9) 障がいのある人は、自分の行動について、自分で選択や決定する機会が制限されても仕方がない

『思わない』は 49.0%、『思う』は 15.6%となっています。「どちらともいえない」が 32.0%（131 件）と最も多く、次いで「そう思わない」（30.5%・125 件）、「あまりそう思わない」（18.5%・76 件）、「ややそう思う」（12.4%・51 件）、「そう思う」（3.2%・13 件）の順になっています。

図表.考え方（N=410）



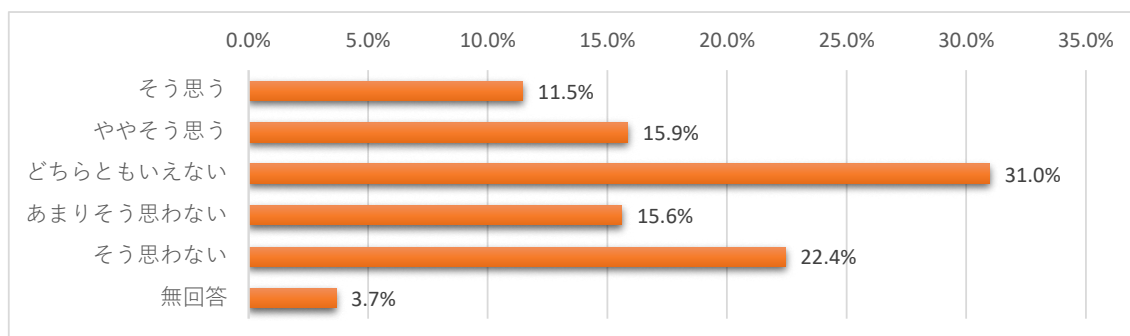
項目	件数	構成比(%)
そう思う	13	3.2%
ややそう思う	51	12.4%
どちらともいえない	131	32.0%
あまりそう思わない	76	18.5%
そう思わない	125	30.5%
無回答	14	3.4%
合計	410	100.0%

【同和問題（部落差別）】

(10) 同和問題（部落差別）は過去にはあったが、今は存在しない

『思わない』は 38.0%、『思う』は 27.4%となっています。「どちらともいえない」が 31.0%（127 件）と最も多く、次いで「そう思わない」（22.4%・92 件）、「ややそう思う」（15.9%・65 件）、「あまりそう思わない」（15.6%・64 件）、「そう思う」（11.5%・47 件）の順になっています。

図表.考え方 (N=410)

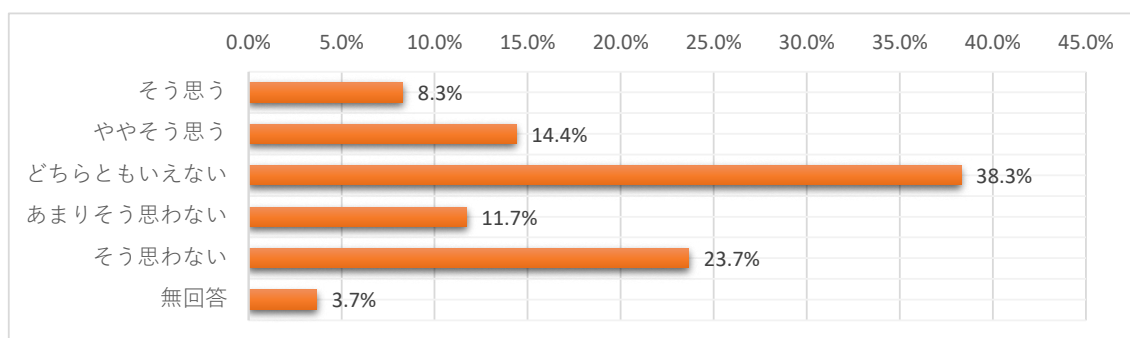


項目	件数	構成比(%)
そう思う	47	11.5%
ややそう思う	65	15.9%
どちらともいえない	127	31.0%
あまりそう思わない	64	15.6%
そう思わない	92	22.4%
無回答	15	3.7%
合計	410	100.0%

(11) 自分の身内が同和地区出身者と結婚することには反対する

『思わない』は 35.4%、『思う』は 22.7%となっています。「どちらともいえない」が 38.3% (157 件) と最も多く、次いで「そう思わない」(23.7%・97 件)、「ややそう思う」(14.4%・59 件)、「あまりそう思わない」(11.7%・48 件)、「そう思う」(8.3%・34 件) の順になっています。

図表.考え方 (N=410)



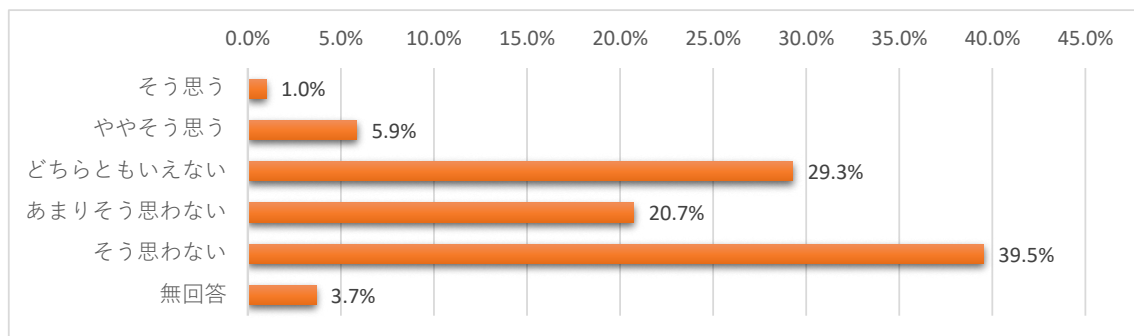
項目	件数	構成比(%)
そう思う	34	8.3%
ややそう思う	59	14.4%
どちらともいえない	157	38.3%
あまりそう思わない	48	11.7%
そう思わない	97	23.7%
無回答	15	3.7%
合計	410	100.0%

【外国人】

(12) 外国人は、賃貸住宅等の入居を断られても仕方がない

『思わない』は 60.2%、『思う』は 6.9%となっています。「そう思わない」が 39.5% (162 件) と最も多く、次いで「どちらともいえない」(29.3%・120 件)、「あまりそう思わない」(20.7%・85 件)、「ややそう思う」(5.9%・24 件)、「そう思う」(1.0%・4 件) の順になっています。

図表.考え方 (N=410)

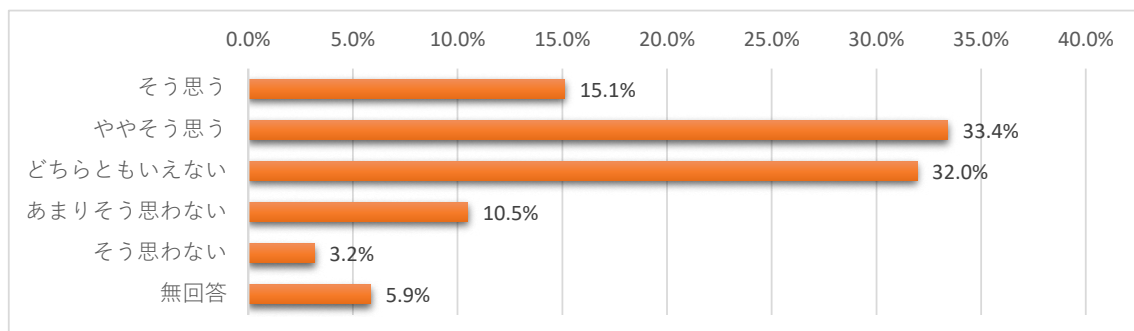


項目	件数	構成比(%)
そう思う	4	1.0%
ややそう思う	24	5.9%
どちらともいえない	120	29.3%
あまりそう思わない	85	20.7%
そう思わない	162	39.5%
無回答	15	3.7%
合計	410	100.0%

(13) 外国の生活習慣や文化などへの理解が欠けており、地域社会への受け入れが十分でない

『思う』は 48.5%、『思わない』は 13.7%となっています。「ややそう思う」が 33.4% (137 件) と最も多く、次いで「どちらともいえない」(32.0%・131 件)、「そう思う」(15.1%・62 件)、「あまりそう思わない」(10.5%・43 件)、「そう思わない」(3.2%・13 件) の順になっています。

図表.考え方 (N=410)



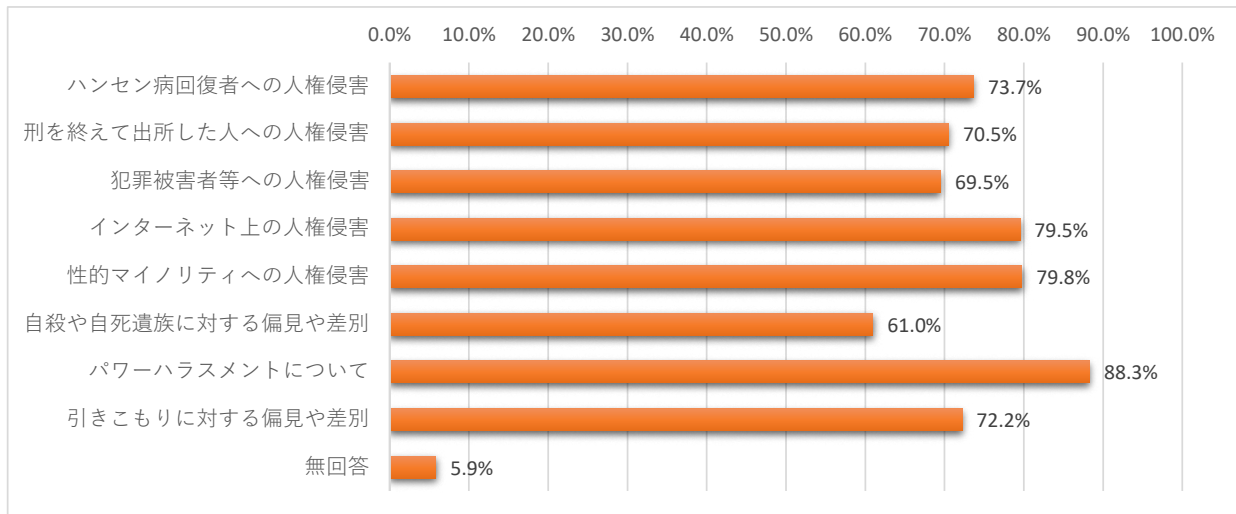
項目	件数	構成比(%)
そう思う	62	15.1%
ややそう思う	137	33.4%
どちらともいえない	131	32.0%
あまりそう思わない	43	10.5%
そう思わない	13	3.2%
無回答	24	5.9%
合計	410	100.0%

問 8 あなたは、次の人権課題について知っていますか。また、それをどのようなきっかけで知りましたか

問 8 人権課題について知っていますか

- 「パワーハラスメントについて」が 88.3% (362 件) と最も多く、次いで「性的マイノリティへの人権侵害」(79.8%・327 件)、「インターネット上の人権侵害」(79.5%・326 件)、「ハンセン病回復者への人権侵害」(73.7%・302 件)、「引きこもりに対する偏見や差別」(72.2%・296 件) の順になっています。
- 人権侵害の認知状況を年齢別でみると、「40～49 歳」「50～59 歳」「70～79 歳」の年齢層では人権侵害全てにおいて全体平均を上回っています。これに対して「20 歳未満」「20～29 歳」「80 歳以上」では全体平均を下回る人権侵害が多くみられる認知状況が表れています。(全体平均より 10 ポイント以上低い人権侵害)
 - ・ 20 歳未満…「ハンセン病回復者への人権侵害」「刑を終えて出所した人への人権侵害」「犯罪被害者等への人権侵害」「性的マイノリティへの人権侵害」「自殺や自死遺族に対する偏見や差別」「パワーハラスメント」
 - ・ 20～29 歳…「ハンセン病回復者への人権侵害」「刑を終えて出所した人への人権侵害」「犯罪被害者等への人権侵害」「自殺や自死遺族に対する偏見や差別」「引きこもりに対する偏見や差別」
 - ・ 30～39 歳…「ハンセン病回復者への人権侵害」「刑を終えて出所した人への人権侵害」「インターネット上の人権侵害」
 - ・ 60～69 歳…「ハンセン病回復者への人権侵害」「刑を終えて出所した人への人権侵害」「引きこもりに対する偏見や差別」
 - ・ 80 歳以上…「刑を終えて出所した人への人権侵害」「犯罪被害者等への人権侵害」「インターネット上の人権侵害」「性的マイノリティへの人権侵害」「自殺や自死遺族に対する偏見や差別」「パワーハラスメント」「引きこもりに対する偏見や差別」

図表.人権課題 (N=410 複数回答)



項目	件数	構成比(%)
ハンセン病回復者への人権侵害	302	73.7%
刑を終えて出所した人への人権侵害	289	70.5%
犯罪被害者等への人権侵害	285	69.5%
インターネット上の人権侵害	326	79.5%
性的マイノリティへの人権侵害	327	79.8%
自殺や自死遺族に対する偏見や差別	250	61.0%
パワーハラスメントについて	362	88.3%
引きこもりに対する偏見や差別	296	72.2%
無回答	24	5.9%
合計	2,461	

表.年齢別人権侵害の認知状況

項目	件数	構成比(%)	20未満	20未満(%)	20-29	20-29(%)	30-39	30-39(%)	40-49	40-49(%)	50-59	50-59(%)	60-69	60-69(%)	70-79	70-79(%)	80以上	80以上(%)	無回答	無回答(%)
ハンセン病回復者への人権侵害	302	73.7%	3	15.8%	14	46.7%	13	59.1%	51	85.0%	42	65.6%	61	83.6%	81	89.0%	36	72.0%	1	100.0%
刑を終えて出所した人への人権侵害	289	70.5%	10	52.6%	13	43.3%	12	54.5%	47	78.3%	47	73.4%	59	80.8%	72	79.1%	29	58.0%	0	0.0%
犯罪被害者等への人権侵害	285	69.5%	9	47.4%	17	56.7%	15	68.2%	51	85.0%	41	64.1%	57	78.1%	68	74.7%	27	54.0%	0	0.0%
インターネット上の人権侵害	326	79.5%	15	78.9%	26	86.7%	20	90.9%	56	93.3%	54	84.4%	61	83.6%	69	75.8%	24	48.0%	1	100.0%
性的マイノリティへの人権侵害	327	79.8%	12	63.2%	22	73.3%	19	86.4%	55	91.7%	56	87.5%	59	80.8%	77	84.6%	27	54.0%	0	0.0%
自殺や自死遺族に対する偏見や差別	250	61.0%	7	36.8%	13	43.3%	12	54.5%	40	66.7%	38	59.4%	49	67.1%	66	72.5%	25	50.0%	0	0.0%
パワーハラスメントについて	362	88.3%	15	78.9%	28	93.3%	20	90.9%	57	95.0%	61	95.3%	66	90.4%	81	89.0%	33	66.0%	1	100.0%
引きこもりに対する偏見や差別	296	72.2%	12	63.2%	17	56.7%	18	81.8%	48	80.0%	42	65.6%	60	82.2%	72	79.1%	27	54.0%	0	0.0%
無回答	24	5.9%	3	15.8%	1	3.3%	1	4.5%	0	0.0%	2	3.1%	4	5.5%	4	4.4%	9	18.0%	0	0.0%
合計	2,461		86		151		130		405		383		476		590		237		3	

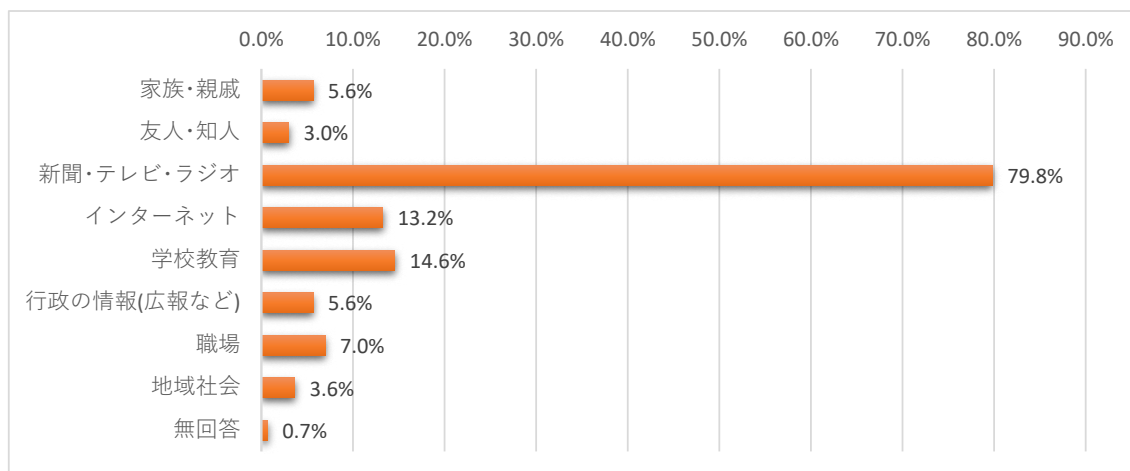
注) は全体平均より 10 ポイント以上割合が低いことを示しています

問8 それをどのようなきっかけで知りましたか

(1) ハンセン病回復者への人権侵害

「新聞・テレビ・ラジオ」が 79.8% (241 件) と最も多く、次いで「学校教育」(14.6%・44 件)、「インターネット」(13.2%・40 件)、「職場」(7.0%・21 件)、「行政の情報(広報など)」 「家族・親戚」(いずれも 5.6%・17 件) の順になっています。

図表. ハンセン病回復者への人権侵害(N=302 複数回答)

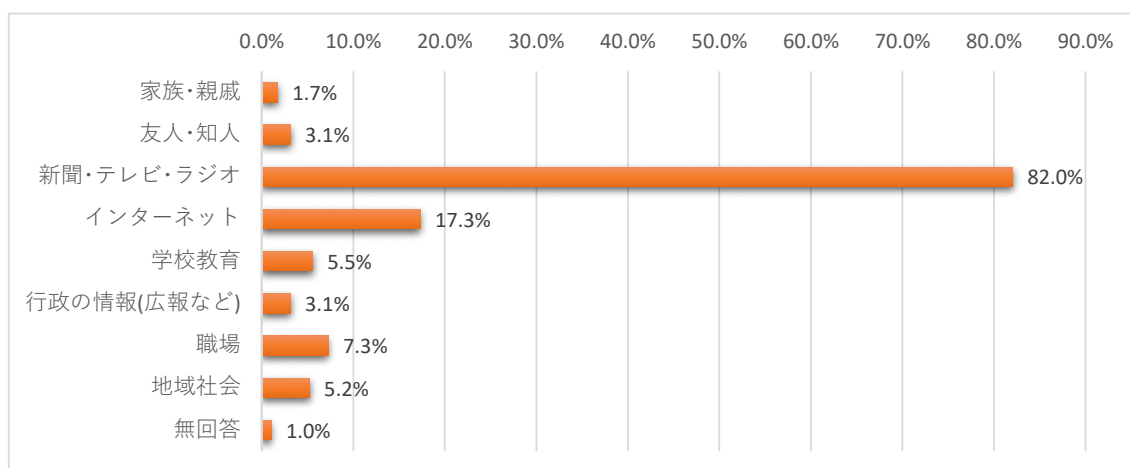


項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	17	5.6%
友人・知人	9	3.0%
新聞・テレビ・ラジオ	241	79.8%
インターネット	40	13.2%
学校教育	44	14.6%
行政の情報(広報など)	17	5.6%
職場	21	7.0%
地域社会	11	3.6%
無回答	2	0.7%
合計	402	

(2) 刑を終えて出所した人への人権侵害

「新聞・テレビ・ラジオ」が82.0% (237件)と最も多く、次いで「インターネット」(17.3%・50件)、「職場」(7.3%・21件)、「学校教育」(5.5%・16件)、「地域社会」(5.2%・15件)の順になっています。

図表. 刑余者への人権侵害 (N=289 複数回答)

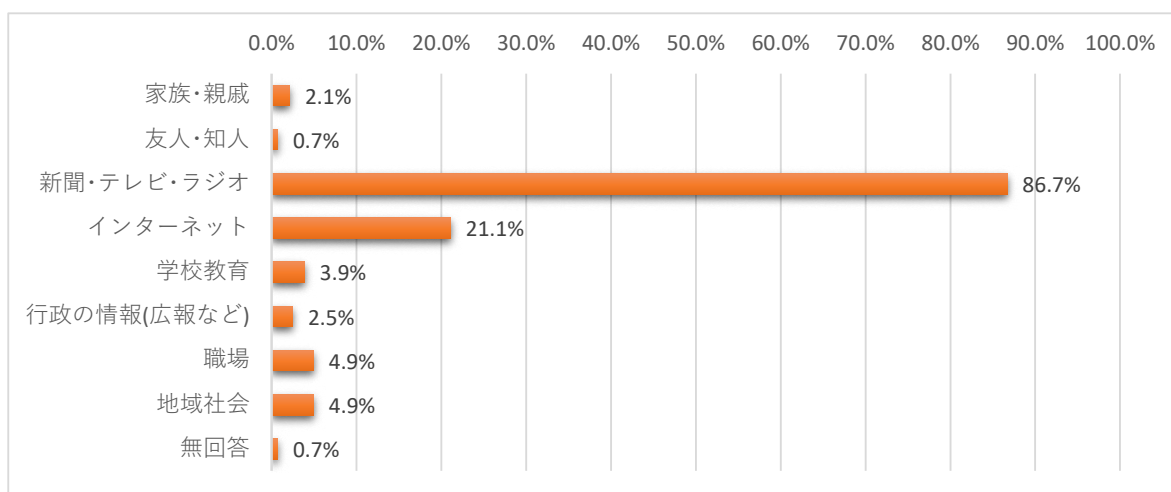


項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	5	1.7%
友人・知人	9	3.1%
新聞・テレビ・ラジオ	237	82.0%
インターネット	50	17.3%
学校教育	16	5.5%
行政の情報(広報など)	9	3.1%
職場	21	7.3%
地域社会	15	5.2%
無回答	3	1.0%
合計	365	

(3) 犯罪被害者等への人権侵害

「新聞・テレビ・ラジオ」が86.7% (247件) と最も多く、次いで「インターネット」(21.1%・60件)、「職場」「地域社会」(いずれも4.9%・14件)、「学校教育」(3.9%・11件)、「行政の情報(広報など)」(2.5%・7件)の順になっています。

図表.犯罪被害者等への人権侵害(N=285 複数回答)

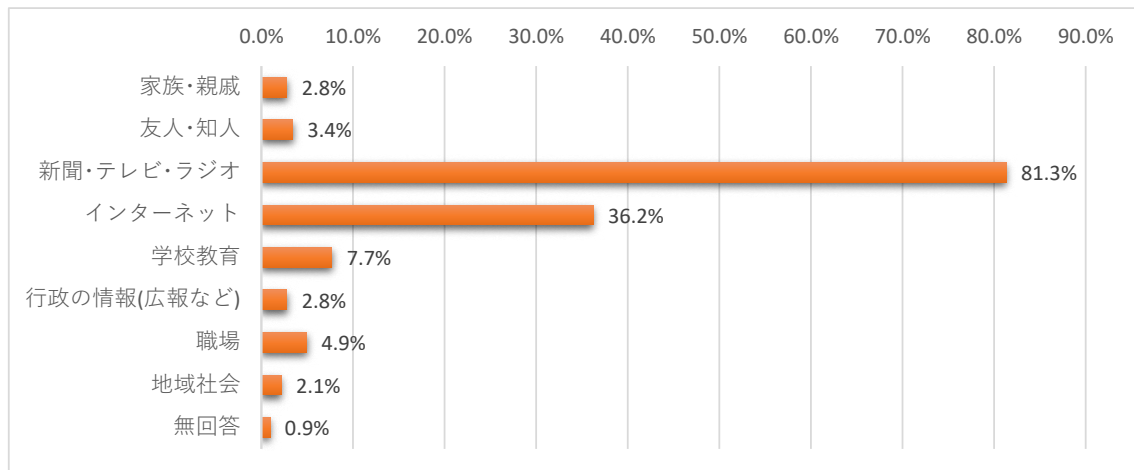


項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	6	2.1%
友人・知人	2	0.7%
新聞・テレビ・ラジオ	247	86.7%
インターネット	60	21.1%
学校教育	11	3.9%
行政の情報(広報など)	7	2.5%
職場	14	4.9%
地域社会	14	4.9%
無回答	2	0.7%
合計	363	

(4) インターネット上の人権侵害

「新聞・テレビ・ラジオ」が81.3%（265件）と最も多く、次いで「インターネット」（36.2%・118件）、「学校教育」（7.7%・25件）、「職場」（4.9%・16件）、「友人・知人」（3.4%・11件）の順になっています。

図表. インターネット上の人権侵害(N=326 複数回答)

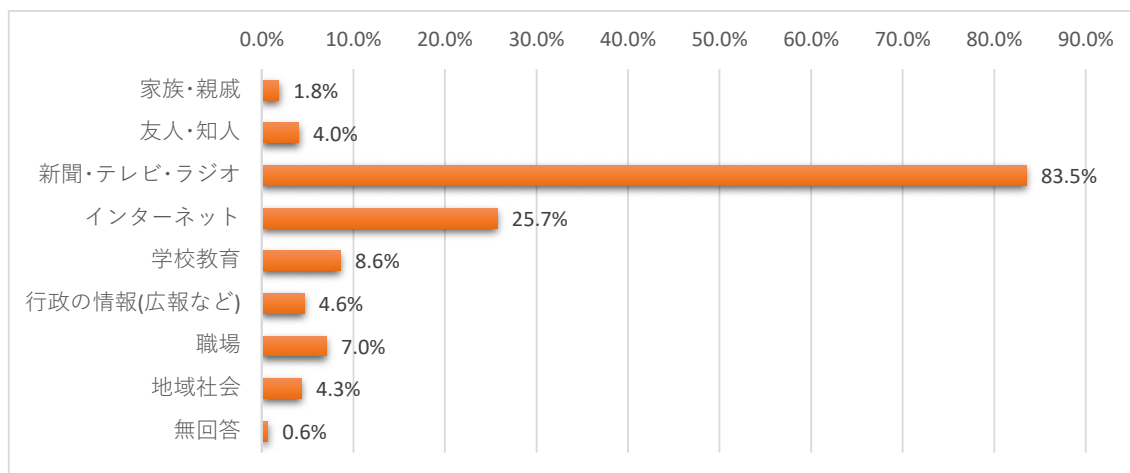


項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	9	2.8%
友人・知人	11	3.4%
新聞・テレビ・ラジオ	265	81.3%
インターネット	118	36.2%
学校教育	25	7.7%
行政の情報(広報など)	9	2.8%
職場	16	4.9%
地域社会	7	2.1%
無回答	3	0.9%
合計	463	

(5) 性的マイノリティへの人権侵害

「新聞・テレビ・ラジオ」が83.5%（273件）と最も多く、次いで「インターネット」（25.7%・84件）、「学校教育」（8.6%・28件）、「職場」（7.0%・23件）、「行政の情報（広報など）」（4.6%・15件）の順になっています。

図表. 性的マイノリティへの人権侵害(N=327 複数回答)

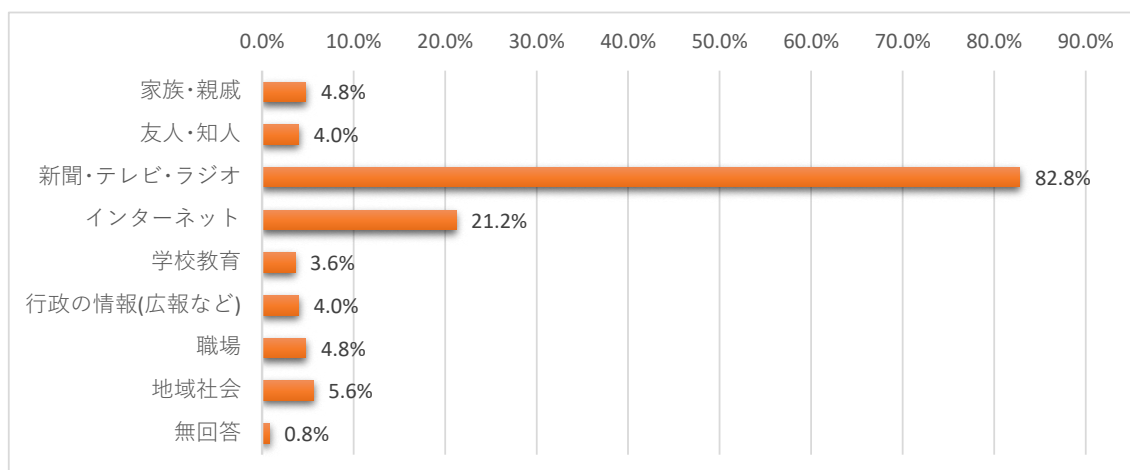


項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	6	1.8%
友人・知人	13	4.0%
新聞・テレビ・ラジオ	273	83.5%
インターネット	84	25.7%
学校教育	28	8.6%
行政の情報(広報など)	15	4.6%
職場	23	7.0%
地域社会	14	4.3%
無回答	2	0.6%
合計	458	

(6) 自殺や自死遺族に対する偏見や差別

「新聞・テレビ・ラジオ」が 82.8% (207 件) と最も多く、次いで「インターネット」(21.2%・53 件)、「地域社会」(5.6%・14 件)、「家族・親戚」「職場」(いずれも 4.8%・12 件)、「友人・知人」「行政の情報(広報など)」(いずれも 4.0%・10 件)の順になっています。

図表. 自殺や自死遺族に対する偏見や差別(N=250 複数回答)

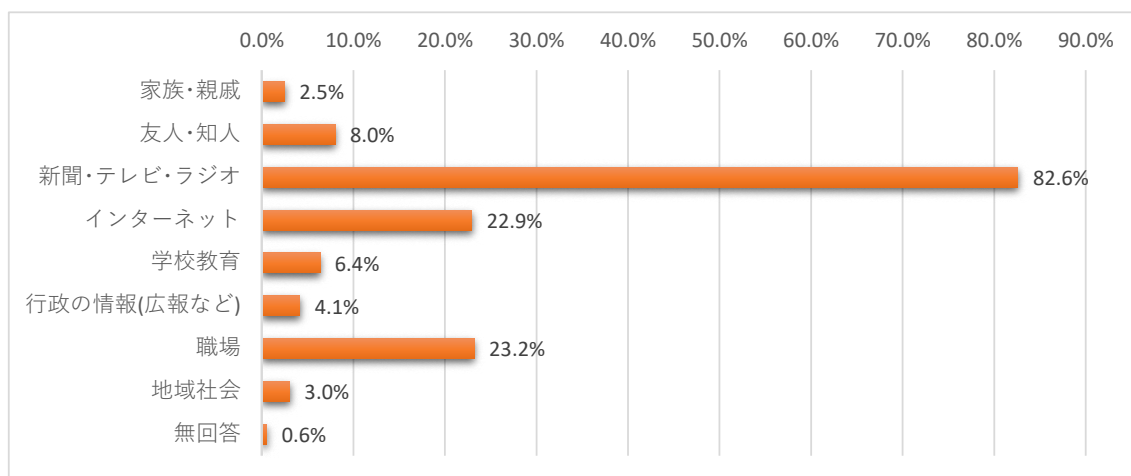


項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	12	4.8%
友人・知人	10	4.0%
新聞・テレビ・ラジオ	207	82.8%
インターネット	53	21.2%
学校教育	9	3.6%
行政の情報(広報など)	10	4.0%
職場	12	4.8%
地域社会	14	5.6%
無回答	2	0.8%
合計	329	

(7) パワーハラスメントについて

「新聞・テレビ・ラジオ」が82.6%（299件）と最も多く、次いで「職場」（23.2%・84件）、「インターネット」（22.9%・83件）、「友人・知人」（8.0%・29件）、「学校教育」（6.4%・23件）の順になっています。

図表. パワーハラスメントについて (N=362 複数回答)

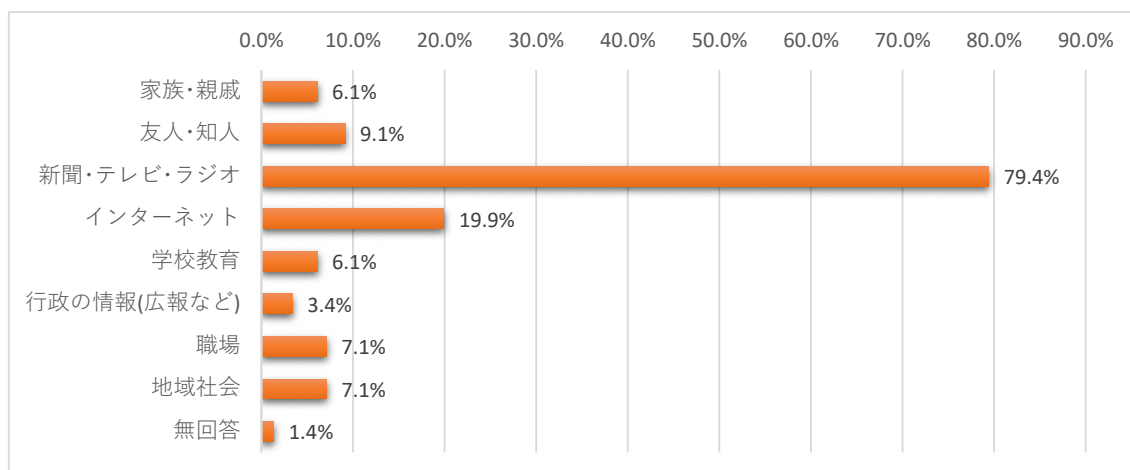


項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	9	2.5%
友人・知人	29	8.0%
新聞・テレビ・ラジオ	299	82.6%
インターネット	83	22.9%
学校教育	23	6.4%
行政の情報(広報など)	15	4.1%
職場	84	23.2%
地域社会	11	3.0%
無回答	2	0.6%
合計	555	

(8) 引きこもりに対する偏見や差別

「新聞・テレビ・ラジオ」が79.4% (235 件) と最も多く、次いで「インターネット」(19.9%・59 件)、「友人・知人」(9.1%・27 件)、「職場」「地域社会」(いずれも 7.1%・21 件) の順になっています。

図表. 引きこもりに対する偏見や差別(N=296 複数回答)



項目	件数	構成比(%)
家族・親戚	18	6.1%
友人・知人	27	9.1%
新聞・テレビ・ラジオ	235	79.4%
インターネット	59	19.9%
学校教育	18	6.1%
行政の情報(広報など)	10	3.4%
職場	21	7.1%
地域社会	21	7.1%
無回答	4	1.4%
合計	413	

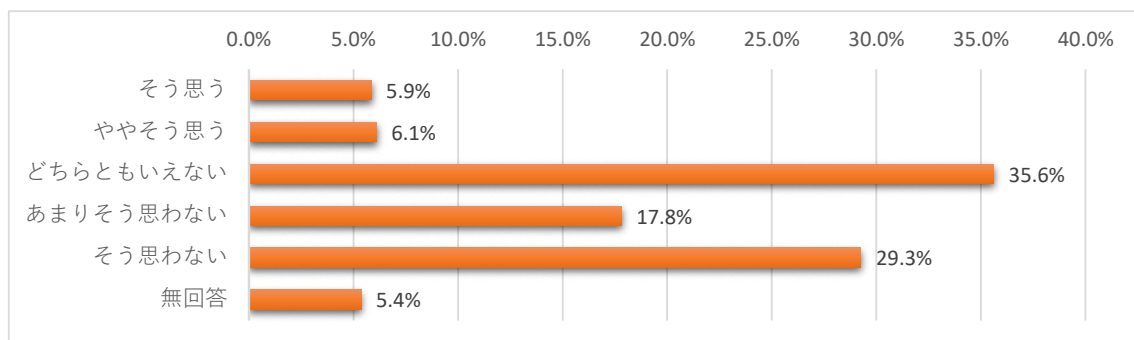
問9 あなたは、次の考え方に対してどのように思いますか

※回答者の主な傾向をみるため、『思う』を「そう思う」と「ややそう思う」の合計割合で、『思わない』を「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計割合でみています。

(1) ハンセン病回復者とは、一緒に食事や入浴はしない

『思わない』は47.1%、『思う』は12.0%となっています。「どちらともいえない」が35.6%（146件）と最も多く、次いで「そう思わない」（29.3%・120件）、「あまりそう思わない」（17.8%・73件）、「ややそう思う」（6.1%・25件）、「そう思う」（5.9%・24件）の順になっています。

図表.考え方（N=410）

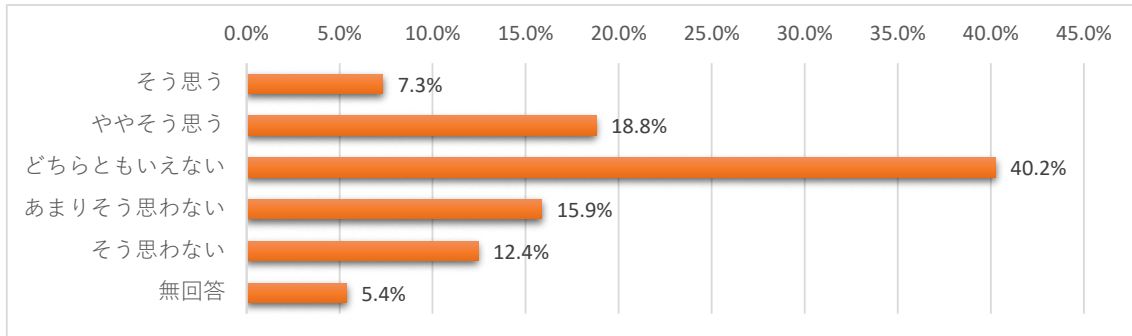


項目	件数	構成比(%)
そう思う	24	5.9%
ややそう思う	25	6.1%
どちらともいえない	146	35.6%
あまりそう思わない	73	17.8%
そう思わない	120	29.3%
無回答	22	5.4%
合計	410	100.0%

(2) 刑を終えて出所した人に対して、雇用や関わりを避ける

『思わない』は28.3%、『思う』は26.1%と、「思わない」と「思う」はわずか2.2ポイントの差しかありません。「どちらともいえない」が40.2%（165件）と最も多く、次いで「ややそう思う」（18.8%・77件）、「あまりそう思わない」（15.9%・65件）、「そう思わない」（12.4%・51件）、「そう思う」（7.3%・30件）の順になっています。

図表.考え方 (N=410)

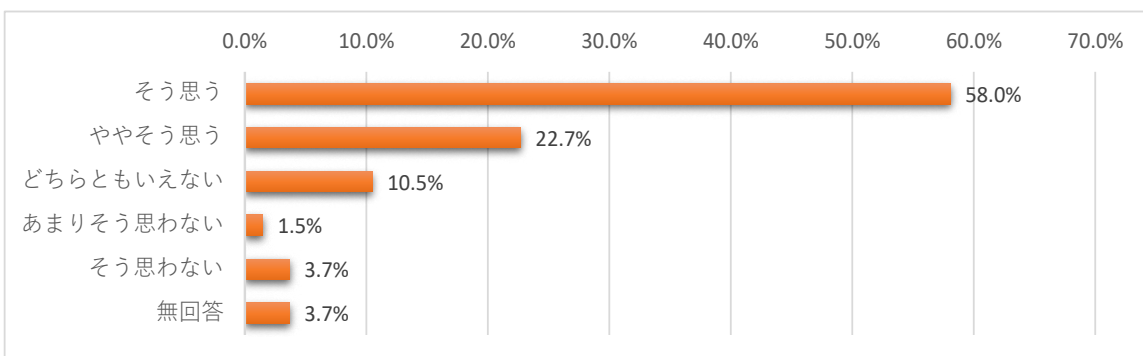


項目	件数	構成比(%)
そう思う	30	7.3%
ややそう思う	77	18.8%
どちらともいえない	165	40.2%
あまりそう思わない	65	15.9%
そう思わない	51	12.4%
無回答	22	5.4%
合計	410	100.0%

(3) 犯罪被害者やその家族が、捜査や刑事裁判で精神的負担を受けないように保護すべきだ

『思う』は80.7%、『思わない』は5.2%となっています。「そう思う」が58.0%（238件）と最も多く、次いで「ややそう思う」（22.7%・93件）、「どちらともいえない」（10.5%・43件）、「そう思わない」（3.7%・15件）、「あまりそう思わない」（1.5%・6件）の順になっています。

図表.考え方 (N=410)

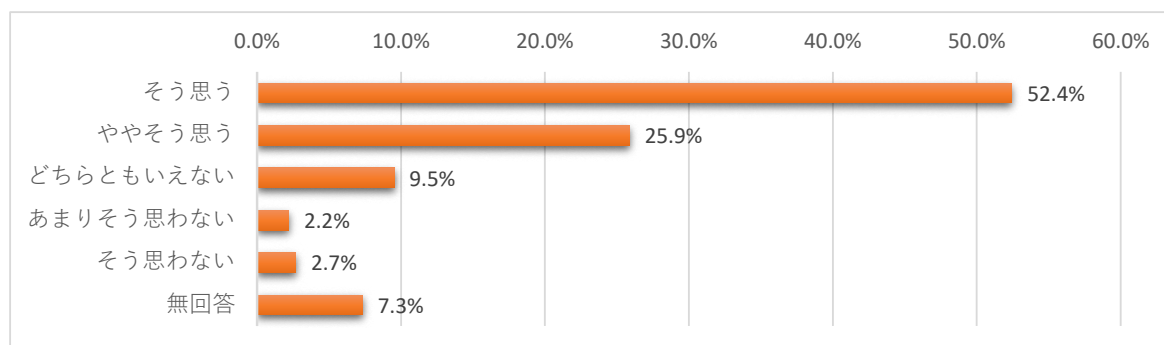


項目	件数	構成比(%)
そう思う	238	58.0%
ややそう思う	93	22.7%
どちらともいえない	43	10.5%
あまりそう思わない	6	1.5%
そう思わない	15	3.7%
無回答	15	3.7%
合計	410	100.0%

(4) 子どもたちの間で、インターネットやSNSを利用したいじめが発生している

『思う』は78.3%、『思わない』は4.9%となっています。「そう思う」が52.4%（215件）と最も多く、次いで「ややそう思う」（25.9%・106件）、「どちらともいえない」（9.5%・39件）、「そう思わない」（2.7%・11件）、「あまりそう思わない」（2.2%・9件）の順になっています。

図表.考え方（N=410）

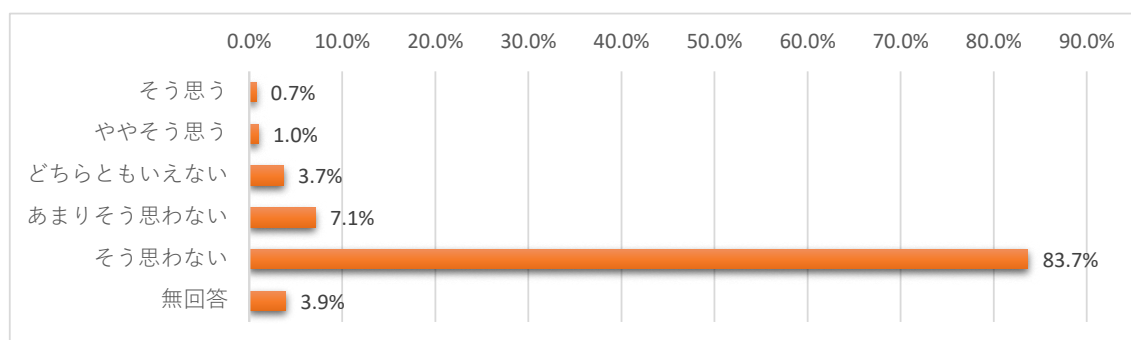


項目	件数	構成比(%)
そう思う	215	52.4%
ややそう思う	106	25.9%
どちらともいえない	39	9.5%
あまりそう思わない	9	2.2%
そう思わない	11	2.7%
無回答	30	7.3%
合計	410	100.0%

(5) インターネット上は、誰もが自由に書き込める場なので、他人の誹謗中傷を書き込んでも問題はない

『思わない』は90.8%、『思う』は1.7%となっています。「そう思わない」が83.7%（343件）と最も多く、次いで「あまりそう思わない」（7.1%・29件）、「どちらともいえない」（3.7%・15件）、「ややそう思う」（1.0%・4件）、「そう思う」（0.7%・3件）の順になっています。

図表.考え方（N=410）

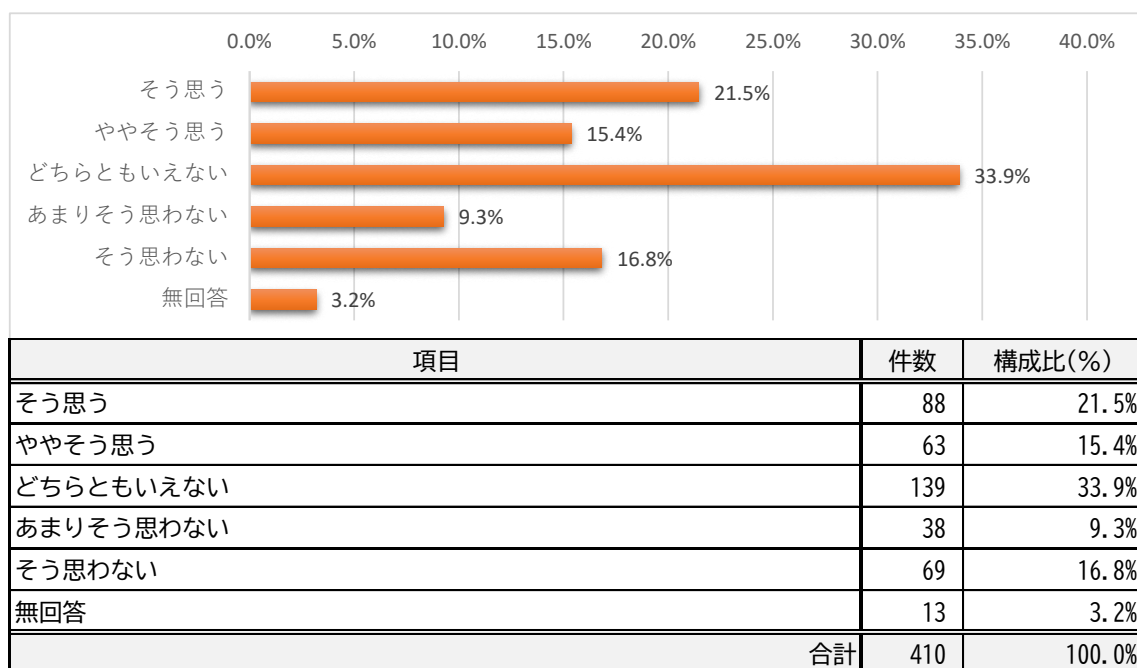


項目	件数	構成比(%)
そう思う	3	0.7%
ややそう思う	4	1.0%
どちらともいえない	15	3.7%
あまりそう思わない	29	7.1%
そう思わない	343	83.7%
無回答	16	3.9%
合計	410	100.0%

(6) 結婚は、男性と男性、女性と女性などでも認められるべきだ

『思う』は 36.9%、『思わない』は 26.1%となっています。「どちらともいえない」が 33.9% (139 件) と最も多く、次いで「そう思う」(21.5%・88 件)、「そう思わない」(16.8%・69 件)、「ややそう思う」(15.4%・63 件)、「あまりそう思わない」(9.3%・38 件) の順になっています。

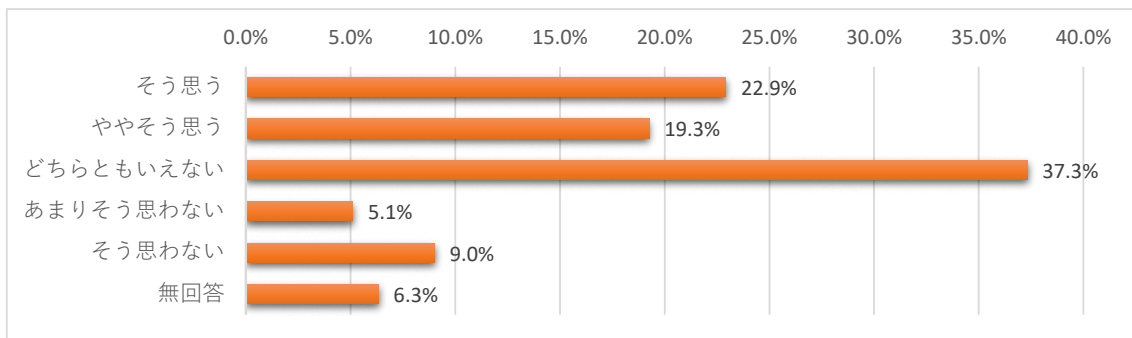
図表.考え方 (N=410)



(7) 家族から、LGBTQなどの性的マイノリティであることを打ち明けられても、意思を尊重し、変わりなく受け入れられる

『思う』は 42.2%、『思わない』は 14.1%となっています。「どちらともいえない」が 37.3% (153 件) と最も多く、次いで「そう思う」(22.9%・94 件)、「ややそう思う」(19.3%・79 件)、「そう思わない」(9.0%・37 件)、「あまりそう思わない」(5.1%・21 件) の順になっています。

図表.考え方 (N=410)

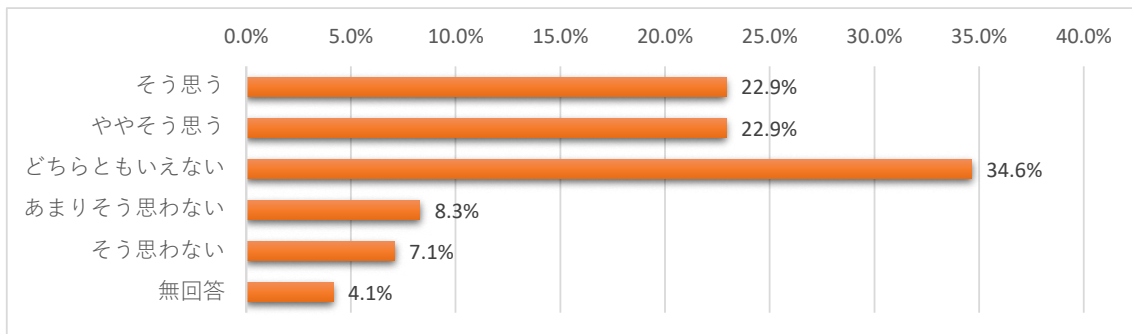


項目	件数	構成比(%)
そう思う	94	22.9%
ややそう思う	79	19.3%
どちらともいえない	153	37.3%
あまりそう思わない	21	5.1%
そう思わない	37	9.0%
無回答	26	6.3%
合計	410	100.0%

(8) 自殺の多くは、社会的に追い込まれた末の死である

『思う』は 45.8%、『思わない』は 15.4%となっています。「どちらともいえない」が 34.6% (142 件) と最も多く、次いで「そう思う」「ややそう思う」(いずれも 22.9%・94 件)、「あまりそう思わない」(8.3%・34 件)、「そう思わない」(7.1%・29 件) の順になっています。

図表.考え方 (N=410)

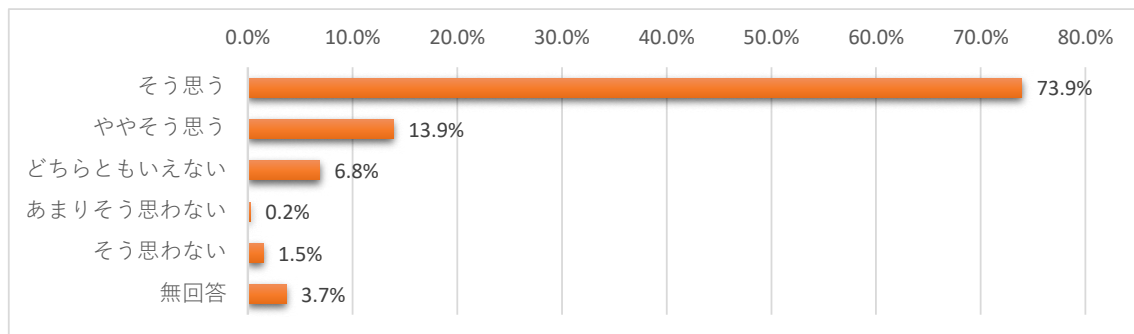


項目	件数	構成比(%)
そう思う	94	22.9%
ややそう思う	94	22.9%
どちらともいえない	142	34.6%
あまりそう思わない	34	8.3%
そう思わない	29	7.1%
無回答	17	4.1%
合計	410	100.0%

(9) 人前で部下を長時間にわたり大声で叱るのはハラスメントだ

『思う』は87.8%、『思わない』は1.7%となっています。「そう思う」が73.9%（303件）が最も多く、次いで「ややそう思う」（13.9%・57件）、「どちらともいえない」（6.8%・28件）、「そう思わない」（1.5%・6件）、「あまりそう思わない」（0.2%・1件）の順になっています。

図表.考え方（N=410）

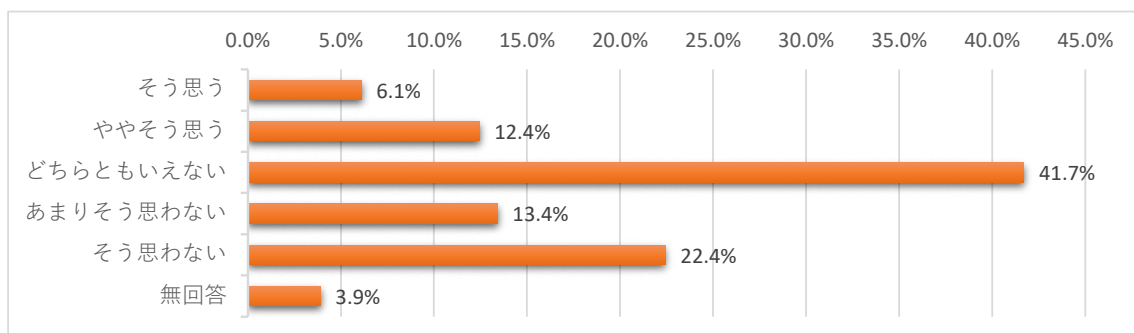


項目	件数	構成比(%)
そう思う	303	73.9%
ややそう思う	57	13.9%
どちらともいえない	28	6.8%
あまりそう思わない	1	0.2%
そう思わない	6	1.5%
無回答	15	3.7%
合計	410	100.0%

(10) 引きこもりの状態になるのは、本人や家族の責任だ

『思わない』は35.8%、『思う』は18.5%となっています。「どちらともいえない」が41.7%（171件）と最も多く、次いで「そう思わない」（22.4%・92件）、「あまりそう思わない」（13.4%・55件）、「ややそう思う」（12.4%・51件）、「そう思う」（6.1%・25件）の順になっています。

図表.考え方（N=410）



項目	件数	構成比(%)
そう思う	25	6.1%
ややそう思う	51	12.4%
どちらともいえない	171	41.7%
あまりそう思わない	55	13.4%
そう思わない	92	22.4%
無回答	16	3.9%
合計	410	100.0%

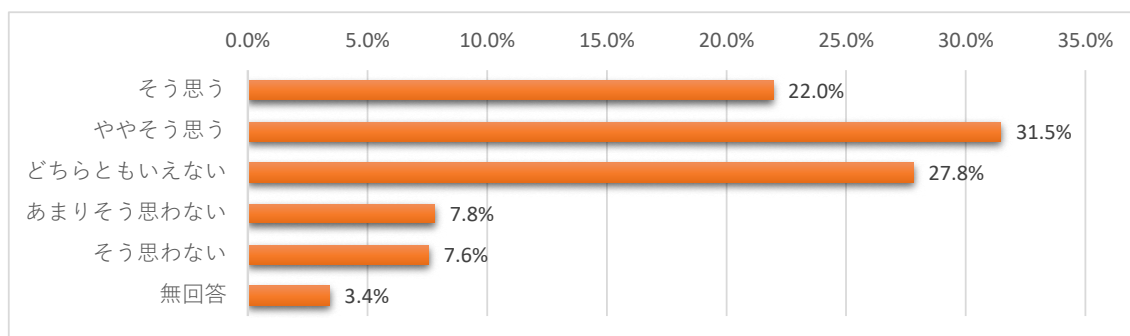
問 10 あなたは、今の社会について、次のような意見に対し、どのように思いますか

※回答者の主な傾向をみるため、『思う』を「そう思う」と「ややそう思う」の合計割合で、『思わない』を「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計割合でみています。

(1) 努力をしない人を社会が面倒を見るのはおかしい

『思う』は 53.5%、『思わない』は 15.4%となっています。「ややそう思う」が 31.5% (129 件) と最も多く、次いで「どちらともいえない」(27.8%・114 件)、「そう思う」(22.0%・90 件)、「あまりそう思わない」(7.8%・32 件)、「そう思わない」(7.6%・31 件) の順になっています。

図表「努力をしない人を社会が面倒を見るのはおかしい」への意識 (N=410)

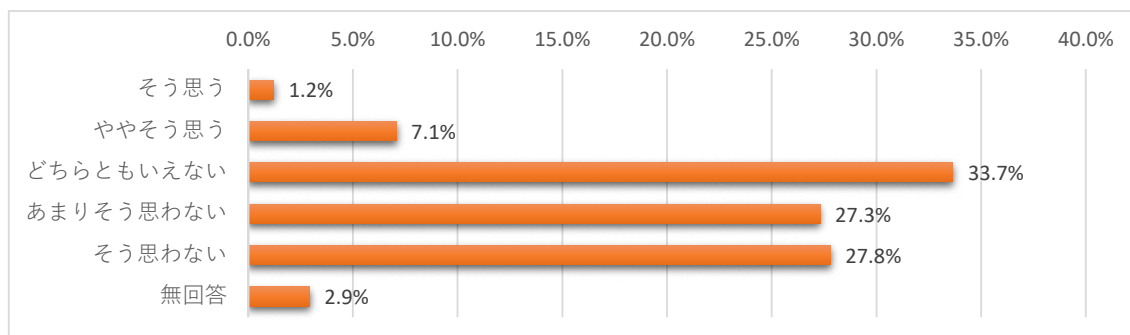


項目	件数	構成比(%)
そう思う	90	22.0%
ややそう思う	129	31.5%
どちらともいえない	114	27.8%
あまりそう思わない	32	7.8%
そう思わない	31	7.6%
無回答	14	3.4%
合計	410	100.0%

(2) 貧困はその人の責任だから、救う必要はない

『思わない』は 55.1%、『思う』は 8.3%となっています。「どちらともいえない」が 33.7% (138 件) と最も多く、次いで「そう思わない」(27.8%・114 件)、「あまりそう思わない」(27.3%・112 件)、「ややそう思う」(7.1%・29 件)、「そう思う」(1.2%・5 件) の順になっています。

図表「貧困はその人の責任だから、救う必要はない」への意識 (N=410)

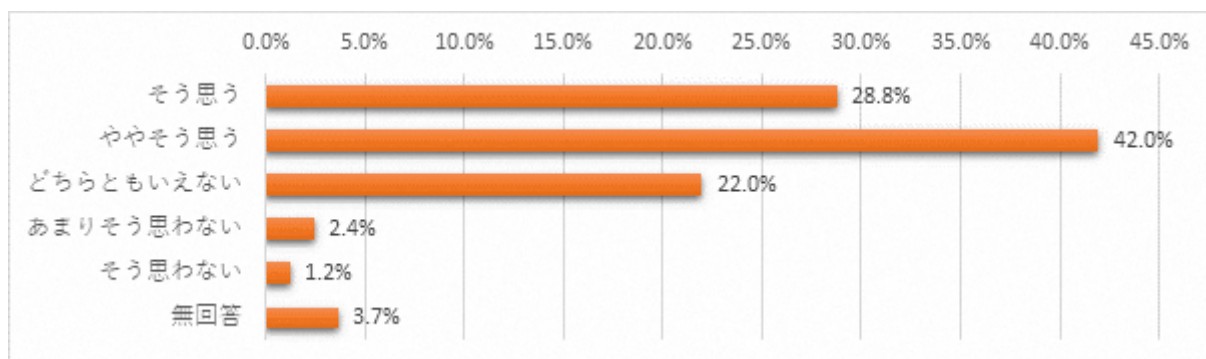


項目	件数	構成比(%)
そう思う	5	1.2%
ややそう思う	29	7.1%
どちらともいえない	138	33.7%
あまりそう思わない	112	27.3%
そう思わない	114	27.8%
無回答	12	2.9%
合計	410	100.0%

(3) 人権尊重が叫ばれる一方で、権利のみを主張して、他人の迷惑を考えない人が増えてきた

『思う』は 70.8%、『思わない』は 3.6%となっています。「ややそう思う」が 42.0% (172 件) と最も多く、次いで「そう思う」(28.8%・118 件.)、「どちらともいえない」(22.0%・90 件)、「あまりそう思わない」(2.4%・10 件)、「そう思わない」(1.2%・5 件)の順になっています。

図表「人権尊重が叫ばれる一方で、権利のみを主張して、他人の迷惑を考えない人が増えてきた」への意識 (N=410)

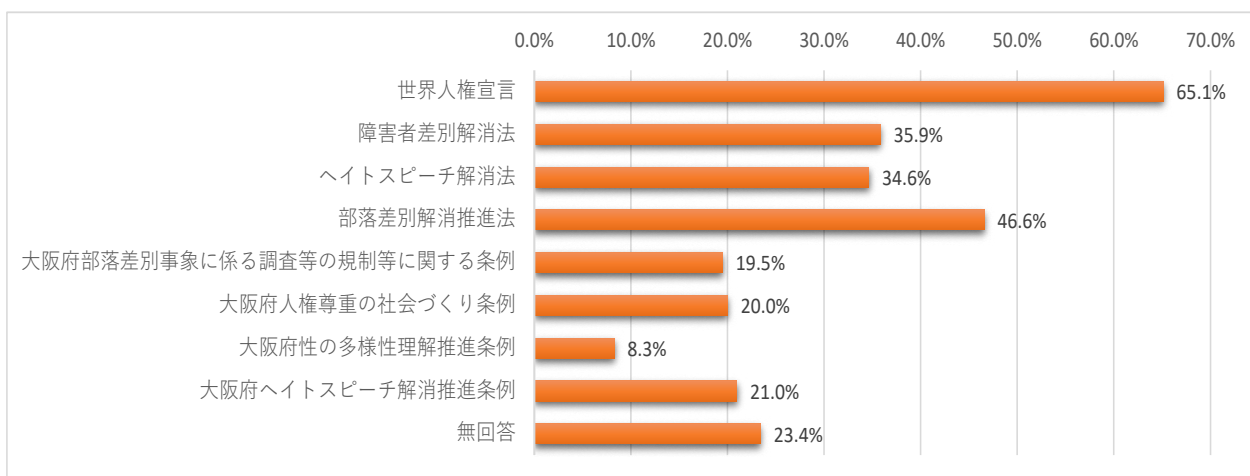


項目	件数	構成比(%)
そう思う	118	28.8%
ややそう思う	172	42.0%
どちらともいえない	90	22.0%
あまりそう思わない	10	2.4%
そう思わない	5	1.2%
無回答	15	3.7%
合計	410	100.0%

問 11 あなたは、次の人権に関する法律や条例があることを知っていますか

人権に関する法律や条例の認知度の上位 5 位は、①世界人権宣言（65.1%・267 件） ②部落差別解消推進法（46.6%・191 件） ③障害者差別解消法（35.9%・147 件） ④ヘイトスピーチ解消法（34.6%・142 件） ⑤大阪府ヘイトスピーチ解消推進条例（21.0%・86 件）と、世界人権宣言の認知度が顕著に高く、また法律の認知度が条例よりも高くなっています。法律・条例の中で最も認知度が低いのは大阪府性の多様性理解増進条例となっています。

図表.人権に関する法律や条例の認知度（N=410 複数回答）



項目	件数	構成比(%)
世界人権宣言	267	65.1%
障害者差別解消法	147	35.9%
ヘイトスピーチ解消法	142	34.6%
部落差別解消推進法	191	46.6%
大阪府部落差別事象に係る調査等の規制等に関する条例	80	19.5%
大阪府人権尊重の社会づくり条例	82	20.0%
大阪府性の多様性理解増進条例	34	8.3%
大阪府ヘイトスピーチ解消推進条例	86	21.0%
無回答	96	23.4%
合計	1,125	

問 12 あなたは、太子町や太子町人権協会が行う人権に関する事業などについて、どれを知っていますか。また、太子町人権啓発推進大会など4つの大会や講演会などの参加経験はありますか

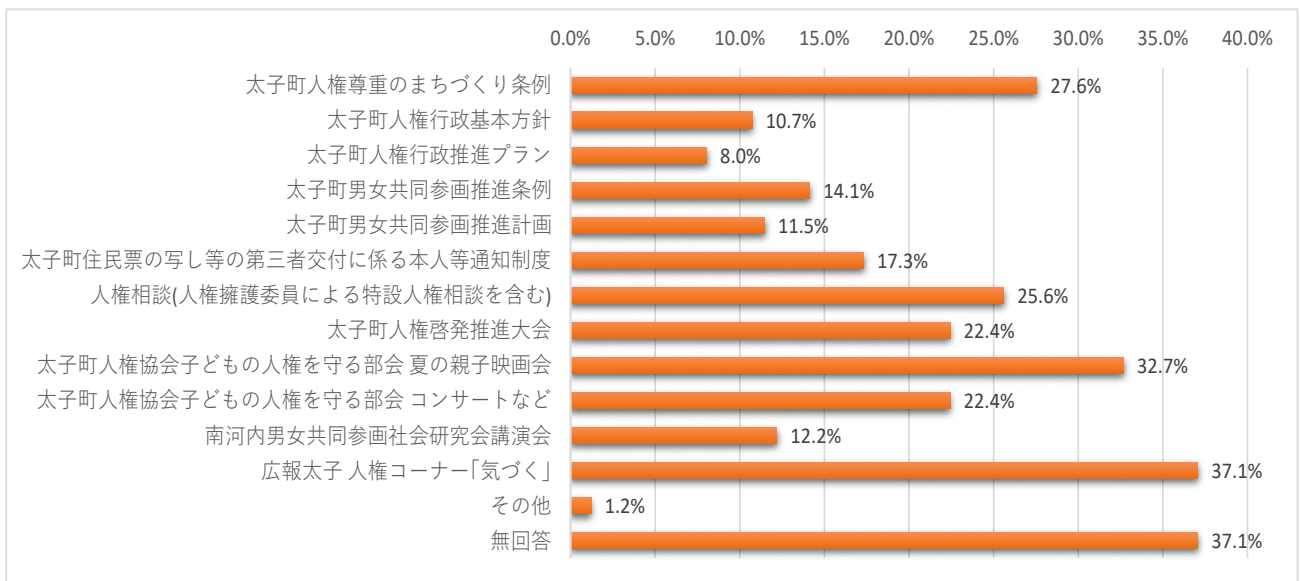
【認知度】

人権に関する事業の上位5位は、①広報太子 人権コーナー「気づく」(37.1%・152件) ②太子町人権協会子どもの人権を守る部会 夏の親子映画会(32.7%・134件) ③太子町人権尊重のまちづくり条例(27.6%・113件) ④人権相談(25.6%・105件) ⑤太子町人権啓発推進大会、太子町人権協会子どもの人権を守る部会コンサートなど(いずれも22.4%・92件)となっています。総じて条例や計画以上に映画会、後援会などイベントの認知度が高いことが表れています。

その他：・そんな事より10万円の給付が河南、千早より遅いのはなぜ？ 人権侵害ではないのか。

- ・聞いた事はあるが具体的には知らない
- ・誰も人権に関する事は知らないから人の悪口傷つく事言うと思います

図表.人権に関する事業の認知度 (N=410 複数回答)



項目	件数	構成比(%)
太子町人権尊重のまちづくり条例	113	27.6%
太子町人権行政基本方針	44	10.7%
太子町人権行政推進プラン	33	8.0%
太子町男女共同参画推進条例	58	14.1%
太子町男女共同参画推進計画	47	11.5%
太子町住民票の写し等の第三者交付に係る本人等通知制度	71	17.3%
人権相談(人権擁護委員による特設人権相談を含む)	105	25.6%
太子町人権啓発推進大会	92	22.4%
太子町人権協会子どもの人権を守る部会 夏の親子映画会	134	32.7%
太子町人権協会子どもの人権を守る部会 コンサートなど	92	22.4%
南河内男女共同参画社会研究会講演会	50	12.2%
広報太子 人権コーナー「気づく」	152	37.1%
その他	5	1.2%
無回答	152	37.1%
合計	1,148	

【参加経験】

- ・ 太子町人権啓発推進大会の「参加」は 33.7%
- ・ 太子町人権協会子どもの人権を守る部会 夏の親子映画会の「参加」は 55.2%
- ・ 太子町人権協会子どもの人権を守る部会 コンサートなどの「参加」は 50.0%
- ・ 南河内男女共同参画社会研究会講演会の「参加」は 42.0%

問 13 太子町は、次の人権課題について「人権が尊重されるまち」であると思いますか

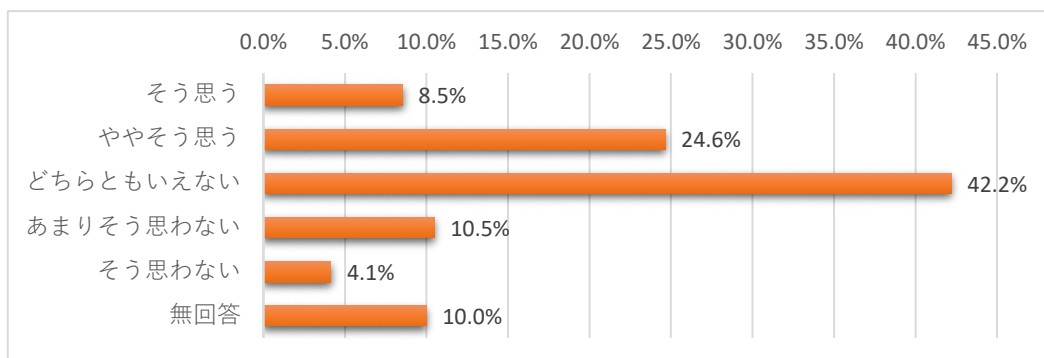
※回答者の主な傾向をみるため、『思う』を「そう思う」と「ややそう思う」の合計割合で、『思わない』を「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計割合でみています。

【男女共同参画】

(1) 男性と女性がともに、仕事や家事、地域での活動に参加し、その個性と能力を十分に発揮できるまちである

『思う』は 33.1%、『思わない』は 14.6%となっています。「どちらともいえない」が 42.2% (173 件) と最も多く、次いで「ややそう思う」(24.6%・101 件)、「あまりそう思わない」(10.5%・43 件)、「そう思う」(8.5%・35 件)、「そう思わない」(4.1%・17 件)の順になっています。

図表.「男性が女性とともに、仕事や家事、地域での活動に参加し、その個性と能力を十分に発揮できるまち」について(N=410)

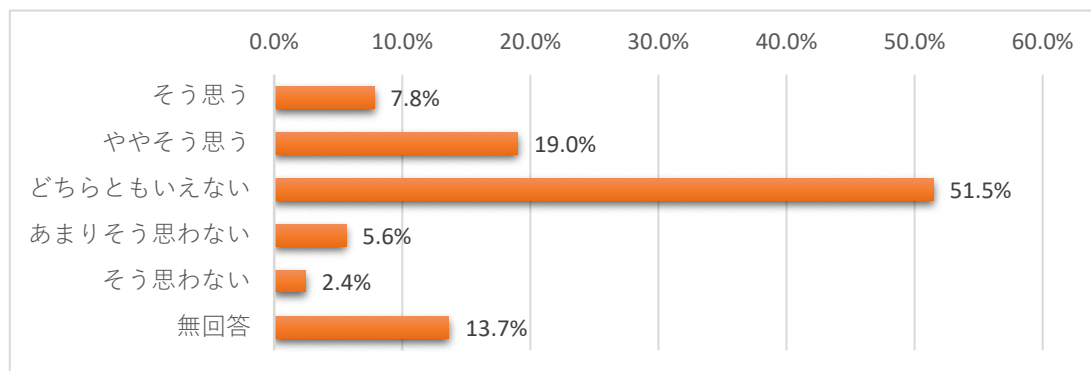


項目	件数	構成比(%)
そう思う	35	8.5%
ややそう思う	101	24.6%
どちらともいえない	173	42.2%
あまりそう思わない	43	10.5%
そう思わない	17	4.1%
無回答	41	10.0%
合計	410	100.0%

(2) 配偶者・パートナーなどからの暴力（DV）の相談が受けられ、安心して暮らせるまちである

『思う』は 26.8%、『思わない』は 8.0%となっています。「どちらともいえない」が 51.5% (211 件) と最も多く、次いで「ややそう思う」(19.0%・78 件)、「そう思う」(7.8%・32 件)、「あまりそう思わない」(5.6%・23 件)、「そう思わない」(2.4%・10 件) の順になっています。

図表.「配偶者・パートナーなどからの暴力（DV）の相談が受けられ、安心して暮らせるまち」について(N=410)



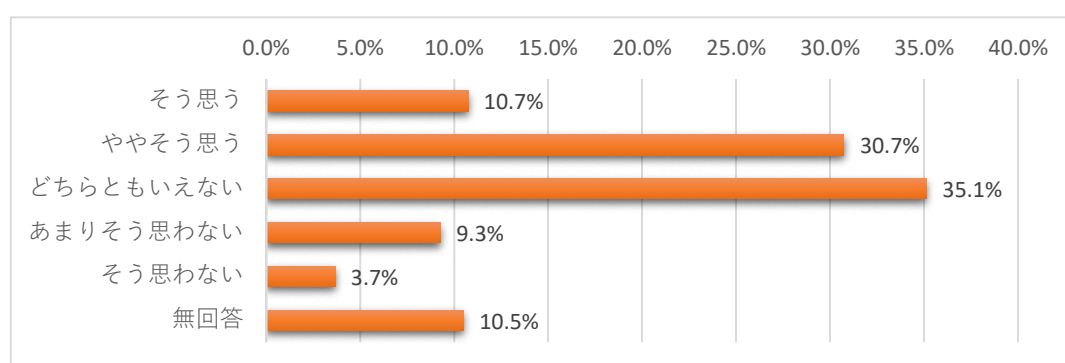
項目	件数	構成比(%)
そう思う	32	7.8%
ややそう思う	78	19.0%
どちらともいえない	211	51.5%
あまりそう思わない	23	5.6%
そう思わない	10	2.4%
無回答	56	13.7%
合計	410	100.0%

【子ども・子育て】

(3) 子どもが各々の個性を発揮し、夢や目標に向かって、いきいきと暮らせるまちである

『思う』は 41.4%、『思わない』は 13.0%となっています。「どちらともいえない」が 35.1%（144 件）と最も多く、次いで「ややそう思う」（30.7%・126 件）、「そう思う」（10.7%・44 件）、「あまりそう思わない」（9.3%・38 件）、「そう思わない」（3.7%・15 件）の順になっています。

図表.「子どもが各々の個性を発揮し、夢や目標に向かって、いきいきと暮らせるまち」について(N=410)

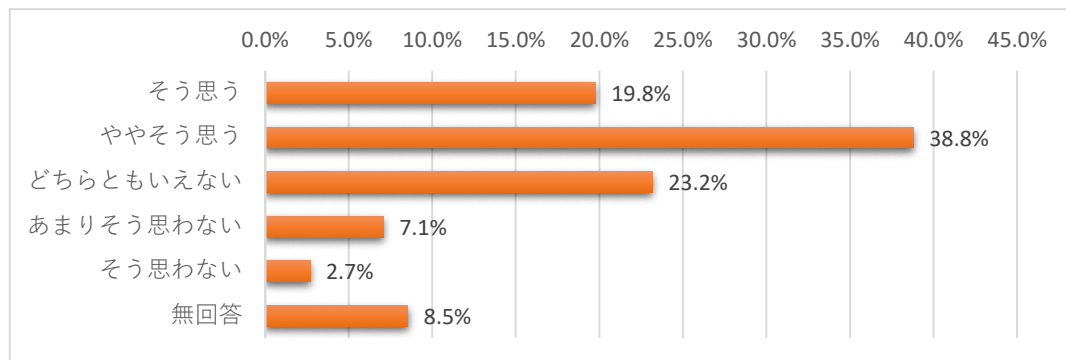


項目	件数	構成比(%)
そう思う	44	10.7%
ややそう思う	126	30.7%
どちらともいえない	144	35.1%
あまりそう思わない	38	9.3%
そう思わない	15	3.7%
無回答	43	10.5%
合計	410	100.0%

(4) 子育て家庭が安心して子どもを産み育てられるまちである

『思う』は 58.6%、『思わない』は 9.8%となっています。「ややそう思う」が 38.8%（159 件）と最も多く、次いで「どちらともいえない」（23.2%・95 件）、「そう思う」（19.8%・81 件）、「あまりそう思わない」（7.1%・29 件）、「そう思わない」（2.7%・11 件）の順になっています。

図表.「子育て家庭が安心して子どもを産み育てられるまち」について(N=410)



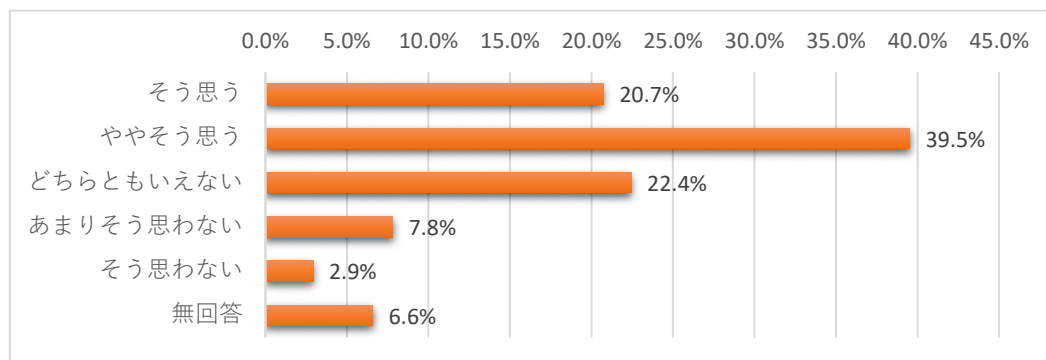
項目	件数	構成比(%)
そう思う	81	19.8%
ややそう思う	159	38.8%
どちらともいえない	95	23.2%
あまりそう思わない	29	7.1%
そう思わない	11	2.7%
無回答	35	8.5%
合計	410	100.0%

【高齢者】

(5) 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまちである

『思う』は60.2%、『思わない』は10.7%となっています。「ややそう思う」が39.5% (162件)と最も多く、次いで「どちらともいえない」(22.4%・92件)、「そう思う」(20.7%・85件)、「あまりそう思わない」(7.8%・32件)、「そう思わない」(2.9%・12件)の順になっています。

図表.「高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるまち」について(N=410)

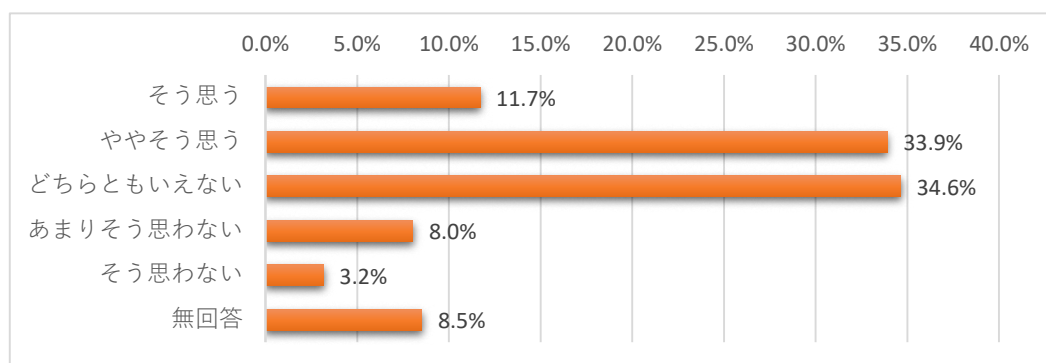


項目	件数	構成比(%)
そう思う	85	20.7%
ややそう思う	162	39.5%
どちらともいえない	92	22.4%
あまりそう思わない	32	7.8%
そう思わない	12	2.9%
無回答	27	6.6%
合計	410	100.0%

(6) 高齢者がさまざまな活動の場に恵まれ、社会参加を通じ、生きがいを持って暮らせるまちである

『思う』は 45.6%、『思わない』は 11.2%となっています。「どちらともいえない」が 34.6%（142 件）と最も多く、次いで「ややそう思う」（33.9%・139 件）、「そう思う」（11.7%・48 件）、「あまりそう思わない」（8.0%・33 件）、「そう思わない」（3.2%・13 件）の順になっています。

図表.「高齢者がさまざまな活動の場に恵まれ、社会参加を通じ、生きがいを持って暮らせるまち」について(N=410)



項目	件数	構成比(%)
そう思う	48	11.7%
ややそう思う	139	33.9%
どちらともいえない	142	34.6%
あまりそう思わない	33	8.0%
そう思わない	13	3.2%
無回答	35	8.5%
合計	410	100.0%

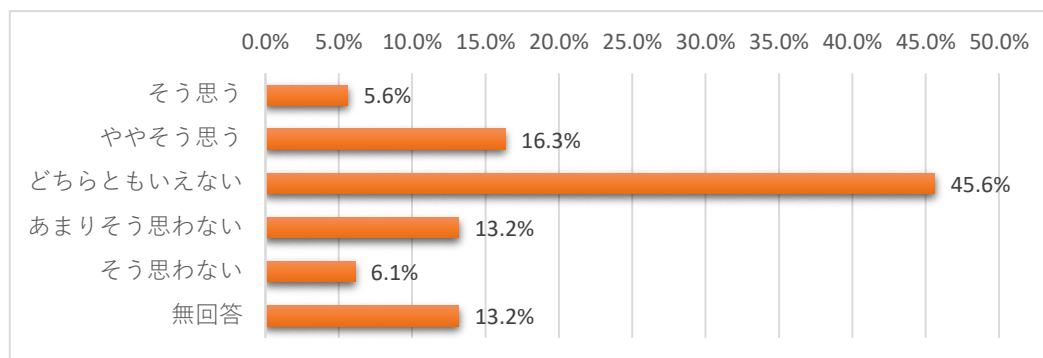
【障がい者・児】

(7) 障がいのある人が就労の機会に恵まれ、自立した生活を営めるまちである

『思う』は 21.9%、『思わない』は 19.3%となっています。「どちらともいえない」が 45.6%（187 件）と最も多く、次いで「ややそう思う」（16.3%・67 件）、「あまりそう思

わない」(13.2%・54件)、「そう思わない」(6.1%・25件)、「そう思う」(5.6%・23件)の順になっています。

図表.「障がいのある人が就労の機会に恵まれ、自立した生活を営めるまち」について(N=410)

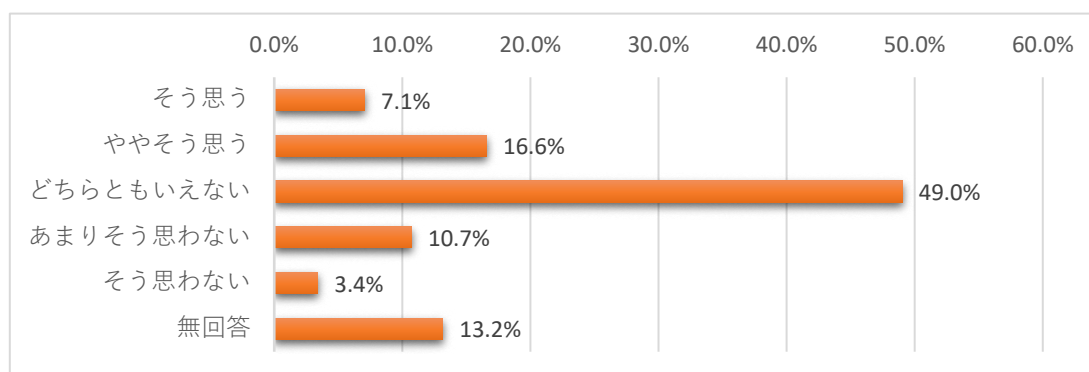


項目	件数	構成比(%)
そう思う	23	5.6%
ややそう思う	67	16.3%
どちらともいえない	187	45.6%
あまりそう思わない	54	13.2%
そう思わない	25	6.1%
無回答	54	13.2%
合計	410	100.0%

(8) 障がいのある人がさまざまな相談ができ、安心して生活を営めるまちである

『思う』は 23.7%、『思わない』は 14.1%となっています。「どちらともいえない」が 49.0% (201件) と最も多く、次いで「ややそう思う」(16.6%・68件)、「あまりそう思わない」(10.7%・44件)、「そう思う」(7.1%・29件)、「そう思わない」(3.4%・14件)の順になっています。

図表.「障がいのある人がさまざまな相談ができ、安心して生活を営めるまち」について (N=410)



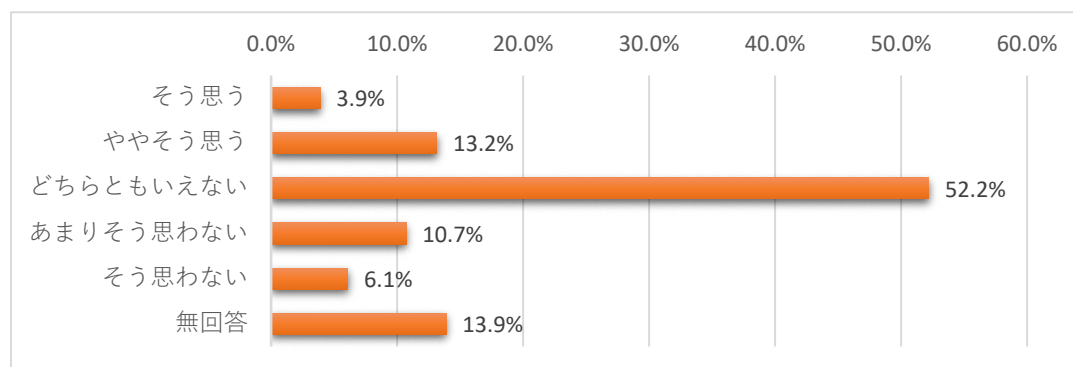
項目	件数	構成比(%)
そう思う	29	7.1%
ややそう思う	68	16.6%
どちらともいえない	201	49.0%
あまりそう思わない	44	10.7%
そう思わない	14	3.4%
無回答	54	13.2%
合計	410	100.0%

【外国人】

(9) 外国人が地域社会の一員として、さまざまな相談や情報提供を受けることができるなど、充実した生活が営めるまちである

『思う』は 17.1%、『思わない』は 16.8%となっています。「どちらともいえない」が 52.2%（214 件）と最も多く、次いで「ややそう思う」（13.2%・54 件）、「あまりそう思わない」（10.7%・44 件）、「そう思わない」（6.1%・25 件）「そう思う」（3.9%・16 件）の順になっています。

図表.「外国人が地域社会の一員として、さまざまな相談や情報提供を受けることができるなど、充実した生活が営めるまち」について(N=410)



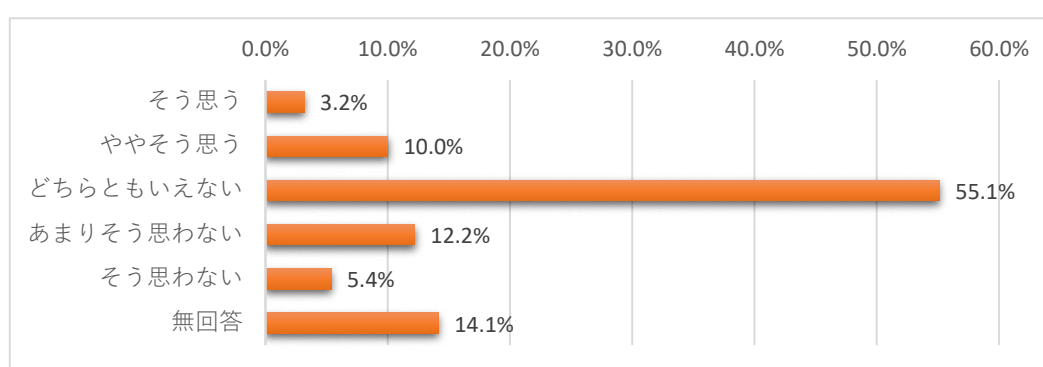
項目	件数	構成比(%)
そう思う	16	3.9%
ややそう思う	54	13.2%
どちらともいえない	214	52.2%
あまりそう思わない	44	10.7%
そう思わない	25	6.1%
無回答	57	13.9%
合計	410	100.0%

【犯罪被害者等】

(10) 犯罪被害者やその家族が再び平穏に暮らせるようになるために、地域の人々の理解や協力が得られるまちである

『思う』は13.2%、『思わない』は17.6%と思わないが思うより多くなっています。「どちらともいえない」が55.1% (226 件) と最も多く、次いで「あまりそう思わない」(12.2%・50 件)、「ややそう思う」(10.0%・41 件)、「そう思わない」(5.4%・22 件)、「そう思う」(3.2%・13 件) の順になっています。

図表.「犯罪被害者やその家族が再び平穏に暮らせるようになるために、地域の人々の理解や協力が得られるまち」について(N=410)



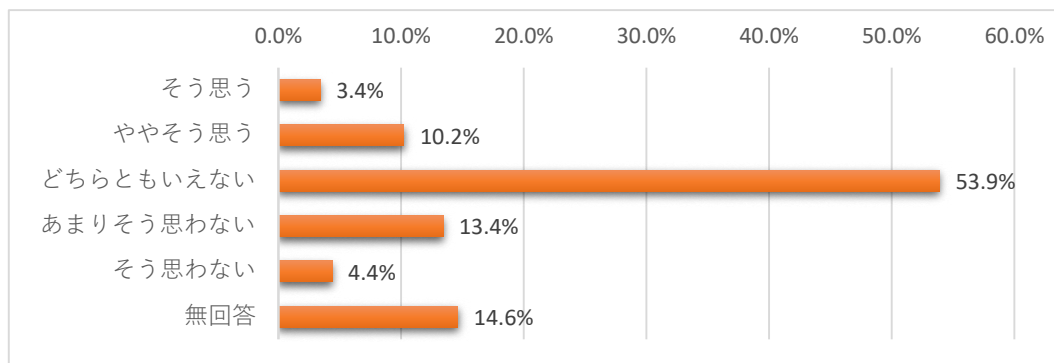
項目	件数	構成比(%)
そう思う	13	3.2%
ややそう思う	41	10.0%
どちらともいえない	226	55.1%
あまりそう思わない	50	12.2%
そう思わない	22	5.4%
無回答	58	14.1%
合計	410	100.0%

【性的マイノリティ】

(11) L G B T Qなどの性的マイノリティの人が差別を受けることなく、自分らしく生きることができるまちである

『思う』は13.6%、『思わない』は17.8%と思わないが思うより4.2ポイント多くなっています。「どちらともいえない」が53.9% (221 件) と最も多く、次いで「あまりそう思わない」(13.4%・55 件)、「ややそう思う」(10.2%・42 件)、「そう思わない」(4.4%・18 件)、「そう思う」(3.4%・14 件) の順になっています。

図表. L G B T Qなど性的マイノリティの人が差別を受けることなく、自分らしく生きることが出来るまち」について(N=410)

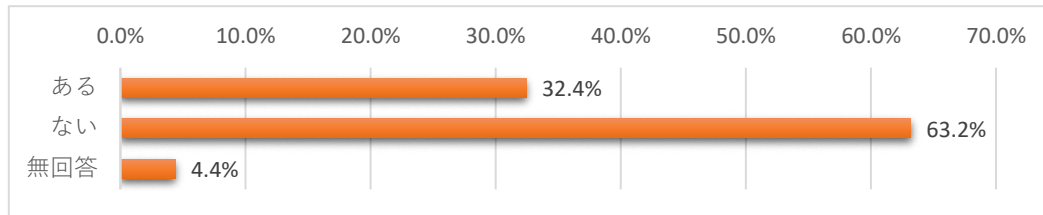


項目	件数	構成比(%)
そう思う	14	3.4%
ややそう思う	42	10.2%
どちらともいえない	221	53.9%
あまりそう思わない	55	13.4%
そう思わない	18	4.4%
無回答	60	14.6%
合計	410	100.0%

問 14 あなたは、人権を尊重する立場からみて問題と思われる言動を、最近 5 年間で身近で見聞きしたことがありましたか

「ある」は 32.4%（133 件）、「ない」は 63.2%（259 件）とほぼ 3 人に 1 人は人権を尊重する立場からみて問題と思われる言動を見聞きしています。

図表.最近 5 年間の人権を尊重する立場からみて問題と思われる言動の見聞き（N＝410）



項目	件数	構成比(%)
ある	133	32.4%
ない	259	63.2%
無回答	18	4.4%
合計	410	100.0%

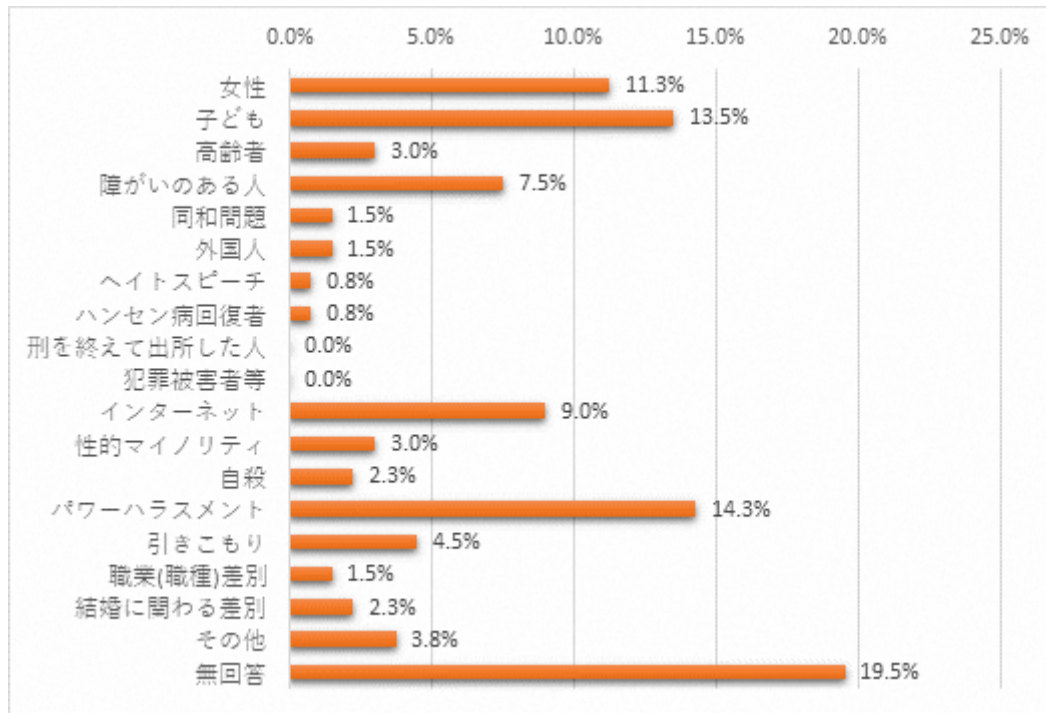
問 14-1 それはどのような人権問題に関するものでしたか

人権を尊重する立場からみて問題と思われる人権問題の上位 5 位は、①「パワーハラスメント」（14.3%・19 件）、②子ども（13.5%・18 件）、③女性（11.3%・15 件）、④インターネット（9.0%・12 件）、⑤障がいのある人（7.5%・10 件）となっています。

その他： ・コロナ

- ・近隣同志のトラブル
- ・セクシュアルハラスメント
- ・地域のボス的人物が町会や自治会を利己的に支配している
- ・近隣

図表.どのような人権問題 (N=133)



項目	件数	構成比(%)
女性	15	11.3%
子ども	18	13.5%
高齢者	4	3.0%
障がいのある人	10	7.5%
同和問題	2	1.5%
外国人	2	1.5%
ヘイトスピーチ	1	0.8%
ハンセン病回復者	1	0.8%
刑を終えて出所した人	0	0.0%
犯罪被害者等	0	0.0%
インターネット	12	9.0%
性的マイノリティ	4	3.0%
自殺	3	2.3%
パワーハラスメント	19	14.3%
引きこもり	6	4.5%
職業(職種)差別	2	1.5%
結婚に関わる差別	3	2.3%
その他	5	3.8%
無回答	26	19.5%
合計	133	100.0%

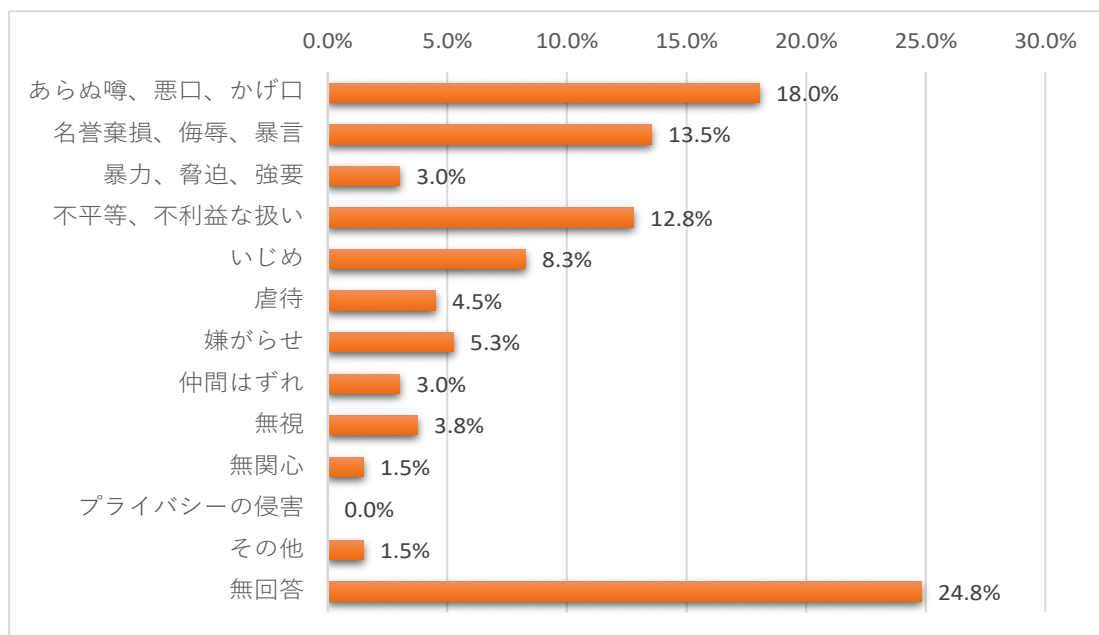
問 14-2 それはどのような内容でしたか

人権問題の内容の上位 5 位は、①あらぬ噂、悪口、かげ口 (18.0%・24 件)、②名誉棄損、侮辱、暴言 (13.5%・18 件)、③不平等、不利益な扱い (12.8%・17 件)、④いじめ (8.3%・11 件)、⑤嫌がらせ (5.3%・7 件) となっています。

その他：・事象に関係ない子供が自宅におしかけてきて事実関係の聞き取り、かくし撮りをしてきた

・同性同士を事実婚と認めず被害者給付金不支給

図表.人権問題の内容 (N=133)



項目	件数	構成比(%)
女性	15	11.3%
子ども	18	13.5%
高齢者	4	3.0%
障がいのある人	10	7.5%
同和問題	2	1.5%
外国人	2	1.5%
ハイトスピーチ	1	0.8%
ハンセン病回復者	1	0.8%
刑を終えて出所した人	0	0.0%
犯罪被害者等	0	0.0%
インターネット	12	9.0%
性的マイノリティ	4	3.0%
自殺	3	2.3%
パワーハラスメント	19	14.3%
引きこもり	6	4.5%
職業(職種)差別	2	1.5%
結婚に関わる差別	3	2.3%
その他	5	3.8%
無回答	26	19.5%
合計	133	100.0%

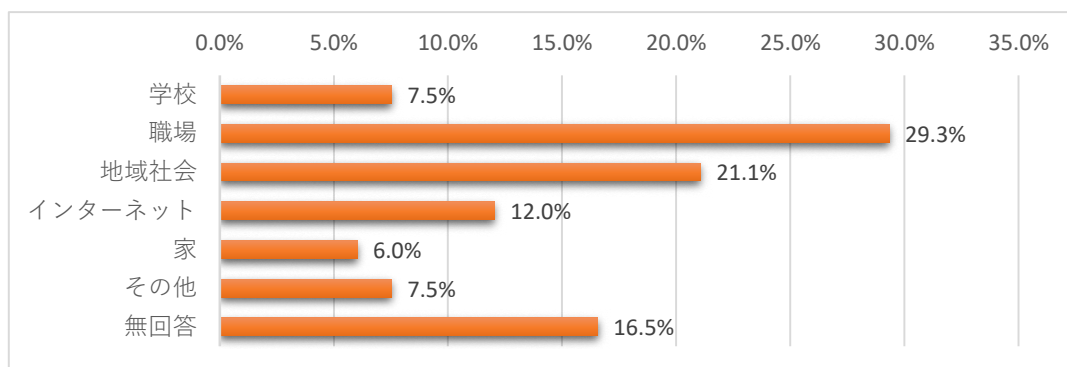
問 14-3 それはどこで見聞きましたか

「職場」が 29.3% (39 件) と最も多く、次いで「地域社会」(21.1%・28 件)、「インターネット」(12.0%・16 件)、「学校」(7.5%・10 件)、「家」(6.0%・8 件) の順になっています。

その他： ・ テレビ

- ・ 子どもの運動クラブの保護者
- ・ 家族の職場
- ・ あるボランティアグループ内で
- ・ 友だち
- ・ アルバイト先
- ・ 学校の先生に相談し内容を先生より報告を受けた
- ・ 身内の障がい者が学校側から嫌がらせされたと身内から聞いた
- ・ いろいろ
- ・ 女性どうしのうわさで仲間はずれの話

図表.人権問題の見分の場所（N＝133）

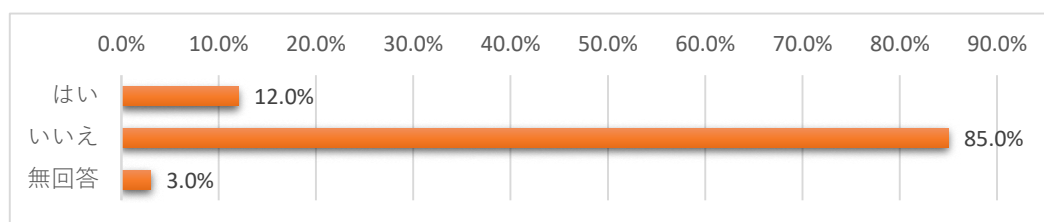


項目	件数	構成比(%)
学校	10	7.5%
職場	39	29.3%
地域社会	28	21.1%
インターネット	16	12.0%
家	8	6.0%
その他	10	7.5%
無回答	22	16.5%
合計	133	100.0%

問 14-4 あなたが見聞きした「人権を尊重する立場からみて問題と思われる言動」はあなた自身に対するものでしたか

「はい」は12.0%（16件）、「いいえ」は85.0%（113件）と、人権を尊重する立場からみて問題と思われる言動を1割の方が受けています。

図表.人権問題の自他の有無（N＝133）

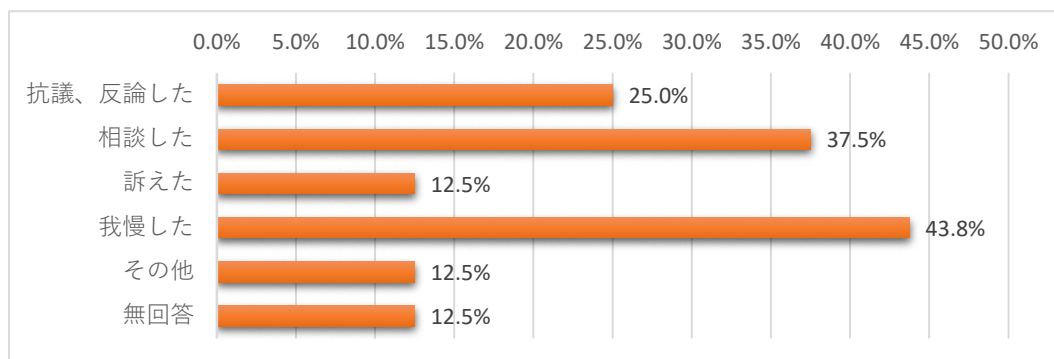


項目	件数	構成比(%)
はい	16	12.0%
いいえ	113	85.0%
無回答	4	3.0%
合計	133	100.0%

問 15 あなた自身に対する「人権を尊重する立場からみて問題と思われる言動」に対してどのような対応をしましたか。また「相談した」「訴えた」「我慢した」「その他」については具体的に記述してください

「我慢した」が 43.8%（7 件）と最も多く、次いで「相談した」（37.5%・6 件）、「抗議・反論した」（25.0%・4 件）、「訴えた」（12.5%・2 件）となっています。

図表.人権問題への対応（N＝16）



項目	件数	構成比(%)
抗議、反論した	4	25.0%
相談した	6	37.5%
訴えた	2	12.5%
我慢した	7	43.8%
その他	2	12.5%
無回答	2	12.5%
合計	23	

【対応についての具体的内容】

1. 「相談した」…6 件

- ・職場の上司/職場の先輩/労基局/市役所相談窓口(無料相談)に行ったが解決できなかった/近所で仲の良い方/友人

2. 「訴えた」…2 件

3. 「我慢した」…5 件

- ・めんどくさいから、人の悪口を言うのがその人の楽しみのようなので…
- ・上司に反論すると職場にいづらくなると思ったから
- ・こんな人を相手にしても自分が損するだけと思った
- ・いつもと同じ
- ・自分も同じ事をするのが嫌だった

「その他」…2 件

- ・相手にするのが時間のムダ
- ・営業をしている中で、この問題が再度

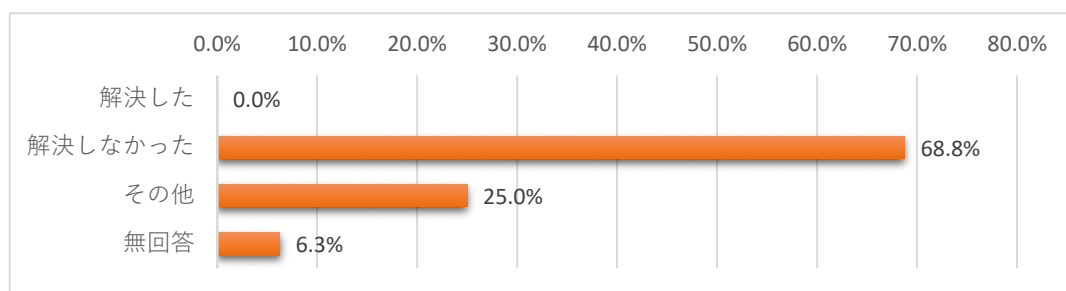
問 15－1 その問題（事案）は最終的に解決しましたか

「解決しなかった」が 68.8%（11 件）、「解決した」はありませんでした。

その他：・私に対しては無くなったが、かわりに他の人が被害をうけ、再び上司に報告した。

- ・そんな人の集まっている所に行かないようにした。
- ・一度しか顔を見た事がないので分かりづらい
- ・町に訴えているが返事がない(連絡するとの事)

図表.事案解決の有無「(N=16)」



項目	件数	構成比(%)
解決した	0	0.0%
解決しなかった	11	68.8%
その他	4	25.0%
無回答	1	6.3%
合計	16	100.0%

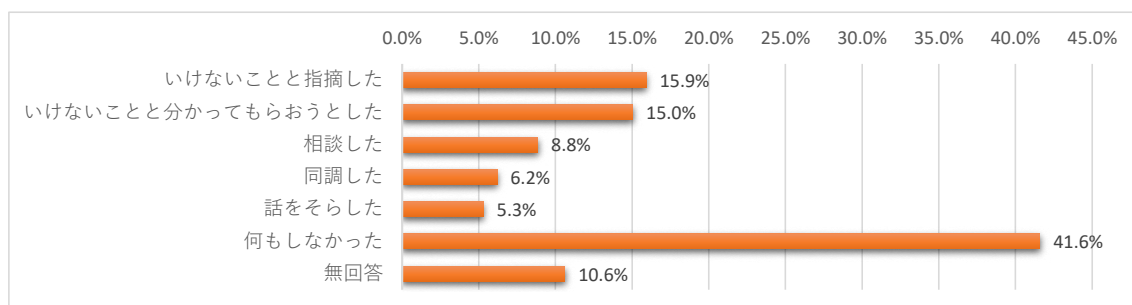
問 16 あなたが見聞きした、あなた以外の方への「人権を尊重する立場からみて問題と思われる言動」に対してどのような対応をしましたか。相談したについては「どこに、誰に」についても具体的に記述してください

「何もしなかった」は 41.6% (47 件)、何らかの対応をしたのは半数近くを占めています。その対応は、「いけないことと指摘した」が 15.9% (18 件) と最も多く、次いで、「いけないことと分かってもらおうとした」(15.0%・17 件)、「相談した」(8.8%・10 件)、「同調した」(6.2%・7 件)、「話をそらした」(5.3%・6 件) となっています。

その他： ・主人と考えを共有しています。

- ・学校
- ・会社のしかるべきセクションに相談
- ・友人に
- ・行政機関
- ・知り合い
- ・学校の担任の先生に
- ・法務局、弁護士、裁判所
- ・先生に相談して解決しました。今は無視になったのでましです。
- ・議員の方

図表.自分以外の人権問題事案の対応「(N=113 複数回答)」



項目	件数	構成比(%)
いけなななことと指摘した	18	15.9%
いけなななことと分かってもらおうとした	17	15.0%
相談した	10	8.8%
同調した	7	6.2%
話をそらした	6	5.3%
何もしなかった	47	41.6%
無回答	12	10.6%
合計	117	

問 16-1 そのような問題（事案）についてどうしたらよいと思いますか

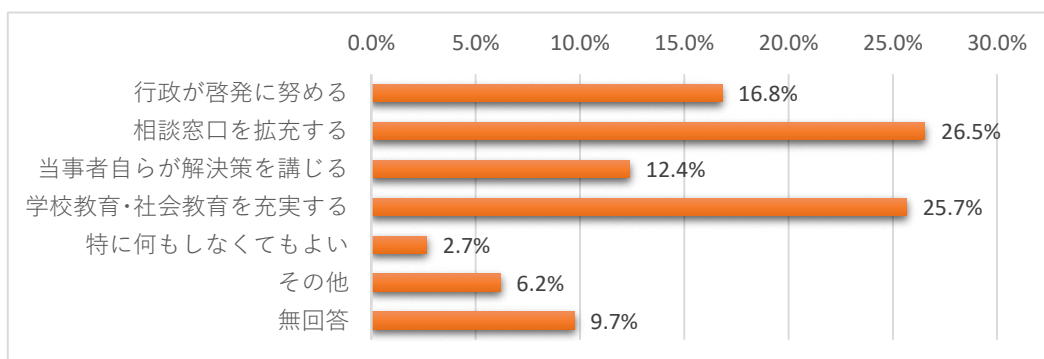
- 「相談窓口を拡充する」が26.5%（30件）と最も多く、次いで「学校教育・社会教育を充実する」（25.7%・29件）、「行政が啓発に努める」（16.8%・19件）、「当事者自らが解決策を講じる」（12.4%・14件）の順になっています。ただ、「特に何もしなくてよい」が2.7%（3件）と若干みられます。

その他： ・ 1～4のすべてが必要だろうと思う。

- ・ まず家族で話し合い、行動する
- ・ 自分の言動が他人の人権を侵害しているということに気づかせるためにできるだけ多くの人の倫理感を養い行政や教育機関、団体、企業などあらゆる集団が人権侵害の防止に努める。
- ・ 監視、制限
- ・ いじめをしたら重い罰をあたえる
- ・ 地域のボス的存在は減って来ているが未だ一部には残っている。狭い地域での民主化が不徹底な所がある。
- ・ 本人が声をあげる。

- 人権学習の経験の有無により人権問題事案の対応策をみると、「人権学習の経験がある」では①学校教育・社会教育の充実（26.5%）②相談窓口を拡充（25.5%）③行政の啓発（18.6%）④当事者自らが解決策を講じる（9.8%）と、人権問題事象に対して人権学習や相談機能の充実や行政の啓発を求めています。「人権学習の経験がない」では①当事者自らが解決策を講じる（50.0%）②相談窓口を拡充（25.0%）③学校教育・社会教育の充実（12.5%）と、2人に1人が当事者による解決を求めています。また、「何もしない」は12.5%を占め、人権学習の経験のない人は総じて行政が方策を検討する必要がないと考えています。

図表.自分以外の人権問題事案の対応策「(N=113)」



項目	件数	構成比(%)
行政が啓発に努める	19	16.8%
相談窓口を拡充する	30	26.5%
当事者自らが解決策を講じる	14	12.4%
学校教育・社会教育を充実する	29	25.7%
特に何もしなくてもよい	3	2.7%
その他	7	6.2%
無回答	11	9.7%
合計	113	100.0%

表.人権学習の経験の有無別自分以外の人権問題事案の対応策

項目	件数	構成比(%)	ある	ある(%)	ない	ない(%)	その他	その他(%)	無回答	無回答(%)
行政が啓発に努める	19	16.8%	19	18.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
相談窓口を拡充する	30	26.5%	26	25.5%	2	25.0%	0	0.0%	2	66.7%
当事者自らが解決策を講じる	14	12.4%	10	9.8%	4	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
学校教育・社会教育を充実する	29	25.7%	27	26.5%	1	12.5%	0	0.0%	1	33.3%
特に何もしなくてもよい	3	2.7%	2	2.0%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
その他	7	6.2%	7	6.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	11	9.7%	11	10.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	113	100.0%	102	100.0%	8	100.0%	0	0.0%	3	100.0%